

教員への帰納的教育の説明資料

教員への説明資料

福知山公立大学情報学部での帰納的教育について—構想、体系、実施

骨子

1. 福知山公立大学情報学部では、具体的な事例から出発し、段階的に原理に近づいていくことで専門性を高めていく帰納的教育法を基調にした教育を行う。この方法では、学習者は、学習対象のイメージの獲得から始めて、ツールの使い方の修得、背後の原理の修得、システム構築による総合へと学習を進める。これにより、学習者の学習課題に関する関心・興味の維持と、学習過程におけるつまづきによる挫折の防止を図る。
2. 帰納的教育法は、期待される効果が大きい反面、実施例が乏しいため、カリキュラムとシラバスの詳細な点検、帰納的な教育に関わる教員の意識合わせ、学習者へのアドバイスの体制、予測される困難への対策を十分行い、専門教育の質の確保を行う必要がある。
3. 本文書の目的は、福知山公立大学情報学部における専門教育の体系と内容を示したうえで、帰納的教育が効果を発揮するために導入した工夫（IT 実習、PBL 科目との連携、実践科目の教育内容の複眼化、科目履修順の柔軟化）について述べる。

1. 福知山公立大学情報学部における専門教育の体系と内容

福知山公立大学情報学部における専門教育は、情報通信基盤 (ICT) 技術、データサイエンス、人間・社会情報学の 3 トラックと、理論、基盤、実践の 3 レベルに分けた 3 × 3 グループの専門教育科目群、その基礎となる情報専門基礎科目群、共通教育科目群、演習・実習を中心とする PBL 科目群から構成される。このうち専門教育に関わるカリキュラムの構造を図 1 に示す。

通常の計算機科学のカリキュラムと比べると、ICT の割合を小さくし、データサイエンスと人間・社会情報学を強化している。

教育方針として次の特色を持たせている。

- ① 学習者が帰納的に学習ができること。学習者は、具体的な事例から出発し、そこから段階的に原理に近づいていくことで専門性を高めていく。
- ② 学習者が事業化も視野に入れたシステム学習ができること。
- ③ テクノロジーによる人間力と社会力の醸成。
- ④ 学習者がプレイフルに楽しみながら学習と研究を進められる。
- ⑤ 学習者が教えることを通して学習できること。

2. 教育メソッド

福知山公立大学情報学部においては、教育法として帰納的教育を基調としている。帰納的な教育法では、実践→基盤→理論の順に教育を進める。すなわち、学習者は、対象のコンセプトや人間社会での位置づけの学習から入り、基盤レベルでのツールを使った実習によって対象に関わるスキルを身につけ、最後に理論科目で理論を通して原理的側面を学ぶ。

帰納的学習の方式の主なメリットとして、次の 4 点が考えられる。

- ① 学習者は興味を持った話題について、その活用法と概念体系を早期に獲得し、体験的な理解を確立しておいてから、ツールを使った演習体験を通して、スキルを身につけたのち、理論を通して原理的な側面の理解を深めていくので、原理の理解が単に試験問題を解くだけのものより深く、体験と動機に根付いたものとなるのが期待できる。
- ② 学習の進め方が積み上げ型ではなく、深化型であるので、履修の途中のつまづきは深化の不具合に起因することが多く、積み上げ型のようにつまづきが次のステップの学習を阻害するこ

PBL	地域情報 PBL 入門、地域情報 PBL 基礎、地域情報 PBL、地域情報プロジェクト、IT 実習 I～IV、インターン実習 I、II		
実践科目	情報通信技術 (ICT) 地理情報システム、情報ネットワーク、組込みシステム	データサイエンス データマーケティング、サービスエンジニアリング、オープンデータ技術、データ理解	人間・社会情報学 エンタテインメント情報学、メディア情報学、ゲーム情報学、人工知能、IoT
基盤科目	情報セキュリティ、分散システム、プログラミング言語処理系、データベースシステム、オペレーティングシステム、計算機アーキテクチャ	統計的モデルを用いたシミュレーション、基礎データ解析、データ解析ツール	情報システム、ヒューマンインタフェース、機械学習システム
理論科目	論理設計、アルゴリズム論、グラフ理論、情報符号理論、計算理論、信号情報処理、数値解析	データ分析と意思決定、データマイニング、品質管理、統計データモデリング、統計解析	画像情報処理、音情報処理、自然言語処理、パターン認識と機械学習
基礎科目	情報学アカデミックスキル、科学技術コミュニケーション、コンピュータプログラミング I、II、インターネット		
共通教育科目	線形代数基礎、微分積分基礎、線形代数、微分積分、統計学、データサイエンス入門、…		

図1 情報学部学生が学ぶ専門科目群の構造（専門科目に関連の深い共通教育科目も含めている）

とがない。いったん、深化を保留して次に進み、後で時間をかけて学修するなど、深刻な困難の回避の道があるので、学習上のストレスが小さい。

- ③ 学習者が入学後すぐに学ぶことになる実践科目は、理論科目に比べると、現場での話題との関りが深く、学習者が将来の進路を絞り込んでいくためには、リスクが小さく、効率がよい。
- ④ 理論科目については学習者がその科目の意義や応用などについて修得を済ませているので、いきなり本題に入れて、豊かな内容を教えることができる。

他方、ディメリットとして次の3点が危惧される。

- ① 学習者の履修が、実世界で役立つ、内容のわかりやすい実践系科目に集中し、実力の涵養に必要な基盤系・理論系科目の学習がおろそかになりかねない。基盤系・理論系科目を履修したとしても興味本位あるいは流行に影響されてつまみ食い的になり、地味であるが重要な科目を着実に履修しないことが懸念される。
- ② 帰納的教育を実施するためには、大学入学者が最初に履修する実践科目の内容を高等学校卒業者に興味を持って、無理なく理解できるレベルに留めなければならない。実践科目の内容を平易にすると、すでに概念や枠組みを修得して、実践的な科目の技術的な部分に興味がある学習者にとって、講義内容がつまらないものになりかねない。

高度な内容を含んだ実践科目の本質を失うこ

となく内容を平易なものにするためには一定の工夫が必要である。教える側の教員自身が帰納的学習の経験が乏しいので、教員の側にも困難が生じる可能性がある。

- ③ 基本的な数学、プログラミング、計算機科学における計算機アーキテクチャのように、データベースシステムのようなより応用的な科目を教えるための基礎となる科目については、その内容をブラックボックス化すると、学習内容が著しく限定され、学習者に大きな困難を引き起こす場合もある。

以上の議論をまとめると、帰納的教育法（図2）では、動機づけから始まり、方法を学び、理論を通した原理の理解に進むので、ストレスなく学習を進められることが期待されるが、それを実現するためには、教授内容の工夫やカリキュラムの注意深い編成などの工夫が必要である。

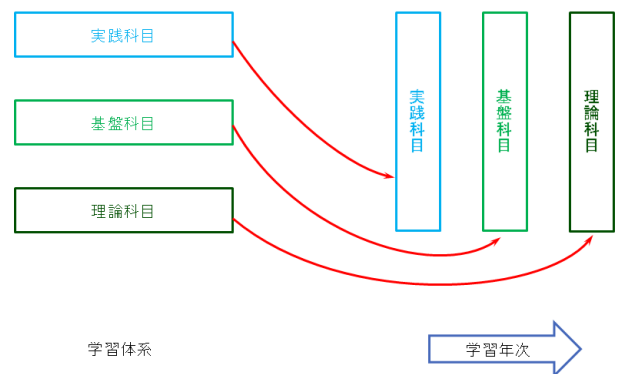


図2 帰納的教育法

（動機づけ、方法を学び、理論を通した原理の理解へ）

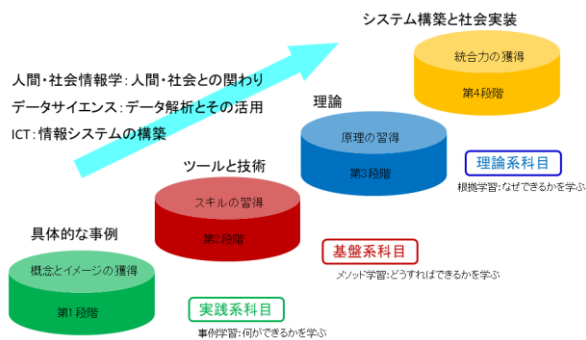


図 3. 福知山公立大学情報学部での帰納的教育の全体像

3. 福知山公立大学情報学部での帰納的教育の実装

福知山公立大学情報学部では図 3 に示す枠組みで帰納的教育を実施する。図 2 の構造に対して、最終年次に学部での学習を総合することを目的とした地域情報プロジェクトを加えている。

帰納的な学習を純粹に推し進めたときに生じ得る課題を克服するために、次に示す工夫をしている。

- ① 学習者が所属する PBL の教員が主たるアドバイザーとして学習者が体系的な専門知とスキルを身につけるよう助言を与える体制をとる。学習者が基盤系で体系的な専門知識をスキルさせるために、データ解析演習（1 年次前期）、IT ハードソフト実習（1 年次後期）、メディア情報処理実習（2 年次前期）、複合現実実習（2 年次後期）の 4 回からなる IT 実習を行うことを必修にして、学習者全員が ICT トラック、データサイエンストラック、情報学の基幹となるテーマについての実習を通じて学力を修得することを担保する。図 4 に詳細を示す。他方、理論系科目については、学習者の自主性、ストレス軽減のため、教員のアドバイスの範囲で、学習者の目標と興味に従って履修し、PBL のテーマに関わりの深いものを中心に履修することとし、網羅的な履修は課さない。

■ IT実習Ⅰ 実世界から情報学へ-データサイエンスの世界-(1年次前期)

- ・ 時系列データ解析入門
- ・ 地理情報システムの活用
- ・ 社会調査データ分析入門
- ・ オープンデータを用いたコンテンツの作成

■ IT実習Ⅱ ITの世界 (1年次後期)

- ・ Raspberry Piと環境センサを用いた環境計測と分析
- ・ FPGAと超音波センサを組み合わせたシステム設計
- ・ 最適化問題の計算機解法
- ・ Lego Mindstorms EV3によるロボットの走行制御

■ IT実習Ⅲ メディア情報学-AIの世界-(2年次前期)

- ・ ゲームプログラミング
- ・ 自然言語処理入門
- ・ 画像処理と認識・分類
- ・ 音声処理と自動作曲・編曲
- ・ 人工生命と遺伝的アルゴリズム

■ IT実習Ⅳ ヒューマンインタフェース-複合現実の世界-(2年次後期)
半期の複合現実コンテンツ開発プロジェクトを4クラスに分かれて実施

図 4. IT 実習の詳細

- ② 実践系科目は、高校卒業者にとって無理なく学べるよう、平易な内容にしている。

高等学校卒業者が入学直後に学ぶ実践科目の内容については、科目内容、達成目標、授業計画を点検し、無理なく学習できるレベルになっていることを確認した。実施レベルでは、「はじめての〇〇」といった形で、高度な専門概念をかみ砕いて解説する書籍や、Slideshare等を通して公開されている勉強会の資料を参考に、教員自身が研鑽する道は整ってきているので、これらを利用して帰納的教育の実践とFDに努める。

- ③ 実践科目、基盤科目の概要を修得済みの学習者に対しても、講義を意味あるものにするために、講義の中に先進的な内容や高度な技術内容への手掛かりをちりばめて、相応の原理科目の内容を修得すればその学習項目を深く理解できることを示すとともに、十分動機づけられた学習者については、教員のアドバイスに基づいて上回生履修や聴講を認めて、より原理的な学習項目への修得を可能にする。すべての実践科目において、最先端のテクノロジーを教えることは学習の困難を避けることの代償であると考え。学習者の負担を考慮し、専門科目教育の中では無理して実現しない。他方、学習者の PBL に関係の深い領域においては、PBL 内で長期間かけて帰納的に進められる学習の過程のなかで、最先端の実践知識と、十分な深さをもつ理論面の学習が行われることが期待できる。

- ⑤ 基本的な数学、プログラミング、計算機アーキテクチャのように学習者が早期に学んだ方がよい科目を同定して、カリキュラムツリーの上位(学習者が早期に学習する科目群)に配置し、演繹的な教育法に従う。

以上を総合した、科目配置を図 5 に示す。これにより、情報学についての広い実践的な知識を概念、事例レベルで知り、必要なスキルを IT 実習で身につけ、自分の PBL の領域において、学部生レベルで十分といえる最先端技術について知り、身についた理論的な学力を有する人材の育成ができると考えられる。

実装されたカリキュラムツリー(別添)は、帰納的教育を実施するうえで想定される短所を補うための様々な工夫を組み込んだものである。このままでは、



図5. 情報学部の科目配置
(科目名による構造表示。特に関わりの深い共通教育科目も含めている)

学習対象の体系が見えにくいので、カリキュラムツリーとは別に、図1の構造を明示することとした。また、図6の対応関係も明示する。

最後に、人間・社会情報学トラック、データサイエンストラック、ICTトラックにおいて、学習者の履修内容を確認し、学習者が無理なく、学習を進められることを確認する。

学習者は、まず、1年次のコースの履修を通して、自分の進む方向を定め、基本的な概念を修得する。2年次では、ツールやスキルの修得を通して、体験的に専門知を固める。ただし、ICTトラックでは、ICTの中心となるコンピュータとインターネットの概念を固めてから、実践科目を履修する。3年次では、理論を通して専門知を深める。自分の進むトラックとは異なるトラックも学んで視野を広める。概念や活用の仕方から学びたい場合は、1年次科目から学び始め、2年次科目、理論科目へと徐々に知を深めていく。すでに概念的基盤ができて人は、2年次科目や3年次科目から始めてもよい。以上を図7にまとめる。

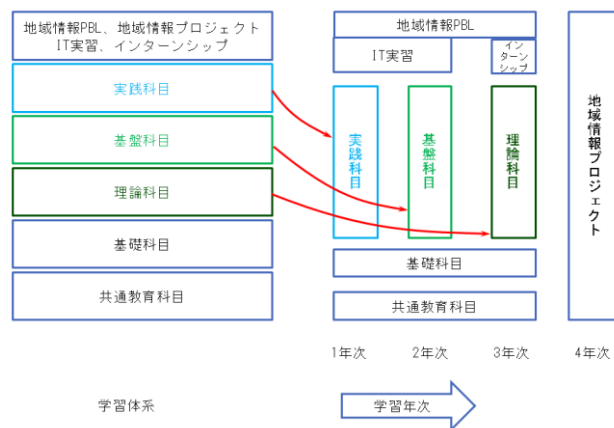


図6. 学習内容とカリキュラムツリーの対応

ここで、人間・社会情報学、データサイエンス、ICTは制度的に区分されたコースではなく、あくまでも代表的なコースである。学習者は指導教員と相談しながら、自分のメニューを組み立てられる。モデル履修コースもいくつか用意している。学習者にとって助言は必要であるが、第1年次からいずれかのPBLに所属することになり、そのPBL主宰教員の助言を受けることができる。

	1年次	2年次	3年次
人間・社会情報学トラック	<p>【実践】人工知能で、ヒトのように高度な知能を持つコンピュータの実現を目指した技術の全体像を学び、メディア情報学で知覚に関わる情報を処理する技術を学び、エンタテインメント情報学、ゲーム情報学、IoTで、人工知能やメディア情報学の応用を含めた発展的話題を学ぶ。</p>	<p>【基盤】機械学習システムで、人工知能、メディア情報学の基幹となるツールの利用法を通して、内部のしくみを学ぶ。ヒューマンインタフェースで、人間とコンピュータの界面に関わる技術を学ぶ。情報システムで、人間社会に情報技術を組み込むための設計法を学ぶ。</p>	<p>【理論】人工知能とメディア情報学の高度化の基礎となる理論として、パターン認識と機械学習、自然言語処理、音情報処理、画像情報処理を学ぶ。</p>
データサイエンストラック	<p>【実践】データ理解を通してデータサイエンスの基本概念を学ぶ。データサイエンスが実際に使われる場面を想定して、サービスエンジニアリング、データマーケティング、オープンデータ技術を学ぶ。</p>	<p>【基盤】データ解析ツール、基礎データ解析を通して、ツールを使ったデータ解析技術とスキルを学ぶ。統計的モデルを用いたシミュレーションで、統計学に基づくシミュレーション手法を学ぶ。</p>	<p>【理論】品質管理、統計解析、統計データモデリング、データ分析と意思決定を通して、データサイエンスの基礎理論を学び、データマイニングを通して、データ活用の理論を学ぶ。</p>
ICTトラック	<p>【基盤】計算機アーキテクチャとオペレーティングシステムで、ICTの中心となるコンピュータの概念を学ぶ。情報専門基礎科目となっているインターネットで学ぶ概念を前提とし、データベースシステムを学習するとともに、【実践】情報ネットワーク、組込みシステムを学ぶ。</p>	<p>【実践】地理情報システム、組込みシステムで、ICTがどのように活用されているかを学ぶ。【基盤】情報セキュリティ、プログラミング言語処理系、分散システムは、ICTのコア概念が作られた2年次に学ぶ。</p>	<p>【理論】情報符号理論、論理設計、計算理論、アルゴリズム論、グラフ理論、信号情報処理、数値解析を通してICTを理論レベルで理解する。多くの理論科目をすべて修得するのは困難であるので、自分の進路に関わりの深いもの、興味を持った科目を中心に学ぶ。</p>
情報基礎	<p>インターネットと、コンピュータプログラミングは1年次のうちに学習し、他の科目を学習するための基礎とする。</p>		
共通基礎	<p>理論科目を学ぶための前提となる、線形代数基礎、微分積分基礎などを1年次、線形代数、微分積分などを2年次に学ぶ。また、入門者用に、統計学、データサイエンス入門を1年次に学ぶ。</p>		

図7. 福知山公立大学情報学部の学習シナリオ

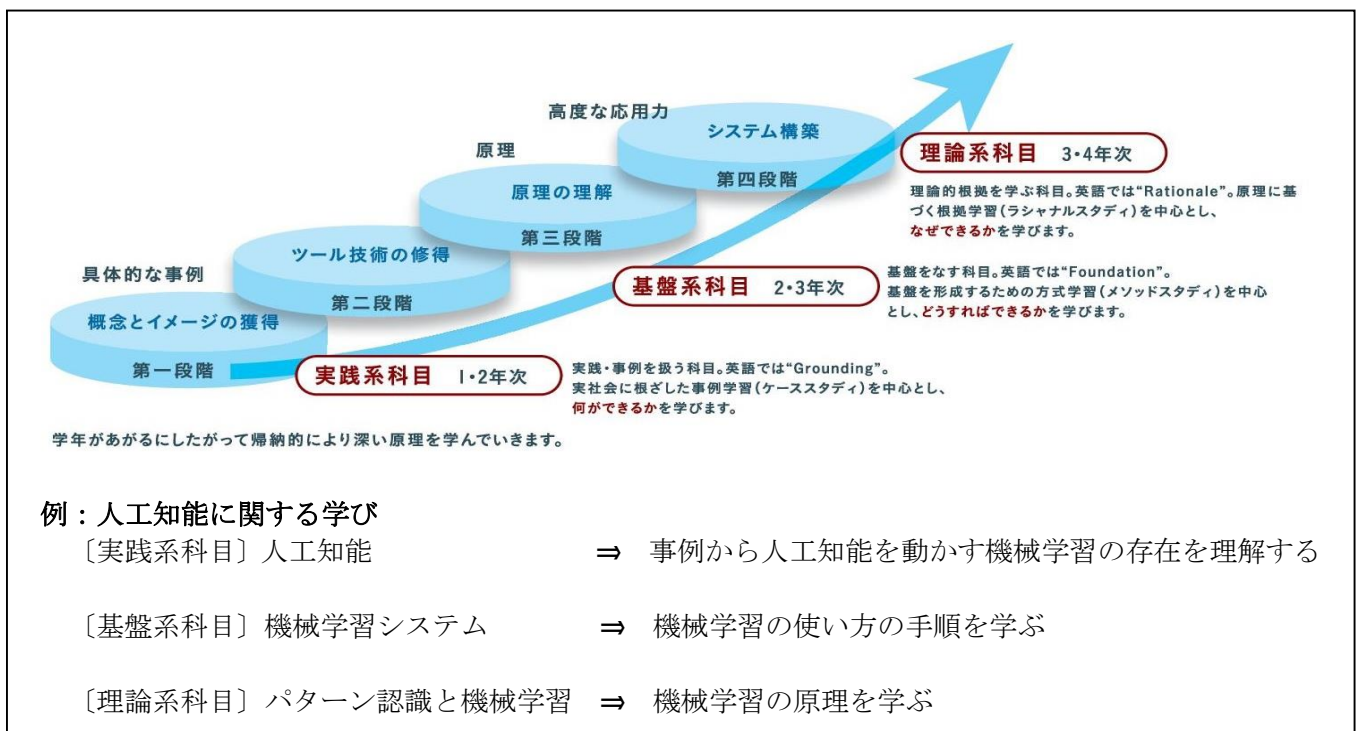
福知山公立大学の情報学部の特徴である「帰納的教育法」って何だろう？

福知山公立大学情報学部の学びで最も核となる専門科目群の3つのトラックでは、各科目で何ができるのかを学ぶ（実践系科目）⇒ どうすればできるのかを学ぶ（基盤系科目）⇒ なぜできるのかを学ぶ（理論系科目）という3段階構成での学習を基本としています。このように事例から理論を学ぶのが「帰納的教育法」です。

帰納的な学びを物語る有名な例は、ニュートンはリンゴが木から落ちるのを見て、なぜリンゴは落ちるのかということから、最終的に万有引力の法則を導き出しました。

従来の特に理系教育では理論を学んでから事例研究を行う「演繹的教育法」が取り入れられてきました。本学では、理論が実生活でどのように活用されているのか事例を通じてイメージできるようにし、また早い段階で事例に触れることで、問題意識と学習意欲を高めるために帰納的教育法を取り入れています。

帰納的教育方法のイメージ図



事例について関心を持った上で、そこにある基盤と理論を学び、卒業時には情報学が体系的に修得できるよう、各教員が皆さんの興味・関心、履修状況に応じた的確にアドバイスをします。

なぜ！なぜ！なぜ！と考えよう。

学生向けの履修説明資料

1. 情報学部カリキュラムの概要

情報学部の専門教育科目は、下表に示すように、専門科目群にプラスして共通教育、基礎、そしてPBLを配置している。さらに、専門科目群であるICT、データサイエンス、人間・社会情報学の各トラックにおいては、帰納的教育法に則った順序で開講され、体系的な学習ができるようになっている。

共通教育科目	線形代数基礎、微分積分基礎、線形代数、微分積分、統計学、データサイエンス入門、…			
基礎科目	情報学アカデミックスキル、科学技術コミュニケーション、 コンピュータプログラミングⅠ、Ⅱ、インターネット			
PBL	地域情報PBL入門、地域情報PBL基礎、地域情報PBL、地域情報プロジェクト、 IT実習Ⅰ～Ⅳ、インターン実習Ⅰ、Ⅱ			
専門科目群	実践系 科目 原則 (1・2年次)	情報通信技術(ICT) 地理情報システム、情報ネットワーク、組込みシステム	データサイエンス データマーケティング、サービスエンジニアリング、オープンデータ技術、データ理解	人間・社会情報学 エンタテインメント情報学、メディア情報学、ゲーム情報学、人工知能、IoT
	基盤系 科目 原則 (2・3年次)	情報セキュリティ、分散システム、プログラミング言語処理系、データベースシステム、オペレーティングシステム、計算機アーキテクチャ	統計的モデルを用いたシミュレーション、基礎データ解析、データ解析ツール	情報システム、ヒューマンインタフェース、機械学習システム
	理論系 科目 (3・4年次)	論理設計、アルゴリズム論、グラフ理論、情報符号理論、計算理論、信号情報処理、数値解析	データ分析と意思決定、データマイニング、品質管理、統計データモデリング、統計解析	画像情報処理、音情報処理、自然言語処理、パターン認識と機械学習

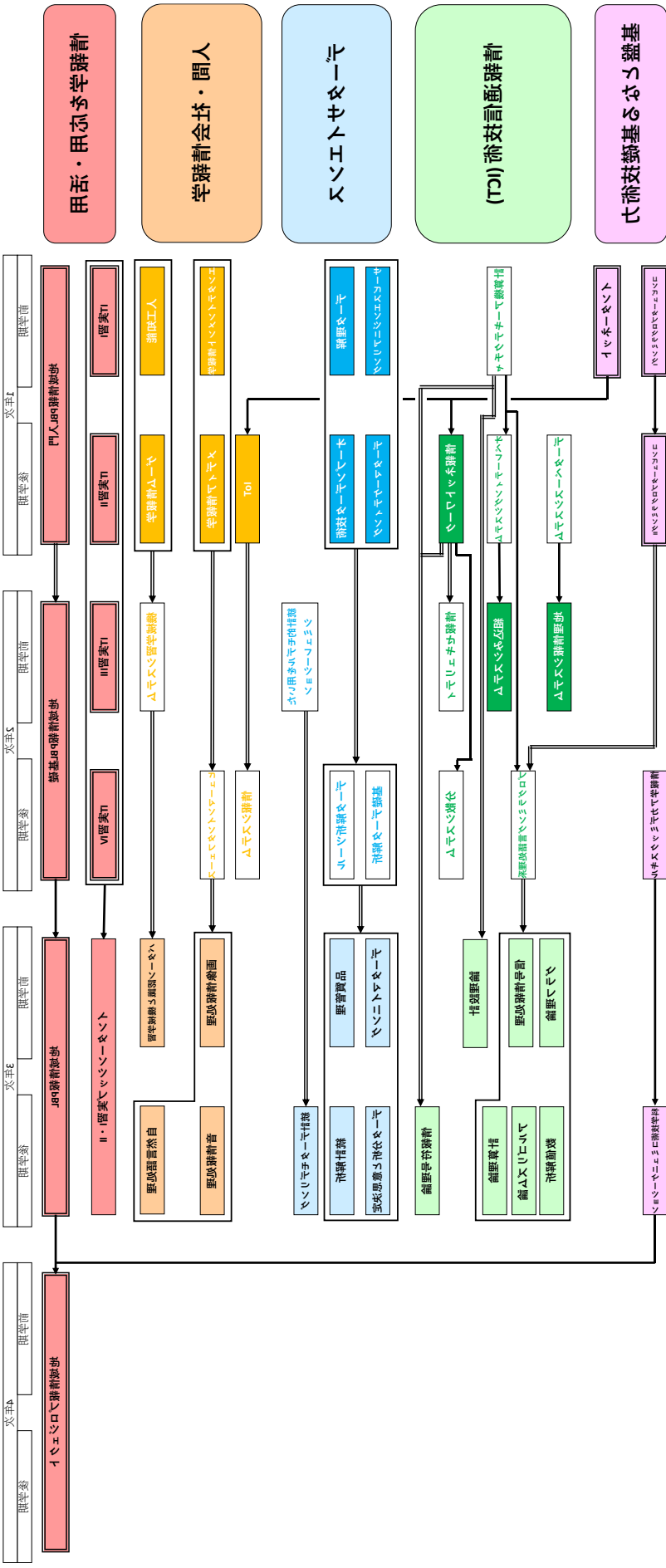
情報学部学生が学ぶ専門科目群の構造（専門科目に関連の深い共通教育科目も含めている）

2. 実際に履修するに当たっての注意事項

情報学部の最も核となる専門科目群は、実際の事例から理論（実践→基盤→理論）へと学習を深める、帰納的教育方法を採用している。このために、履修計画を立てる際には、先に学んだ科目と、それに続く科目の関連性を考慮して履修計画を立てる必要がある。

これを確認するには、次ページのカリキュラムツリーを参考とすること。このカリキュラムツリーの科目間の流れを確認した上で、シラバスによく目を通し、担当教員と十分に履修相談をしたうえで、体系的に科目履修をすること。

一リットムリエキレバ 培学肄学大立公山岐詠



アノココ原の各の目付DI、スエトセマ、学肄学会基・間人

- 各目録 (Yellow box)
- 各目録 (White box)
- 各目録 (White box)
- 各目録 (Orange box)

式風の一リットムリエキレバ
 各目録の点線に付する各目録を各目録の点線、は、中次肄学一・
 (新開前次肄学) 各目録を各目録の点線、は、中次肄学二・
 各目録の点線に付する各目録を各目録の点線、は、中次肄学二・
 (新開前次肄学) 各目録を各目録の点線、は、中次肄学二・
 各目録の点線に付する各目録を各目録の点線、は、中次肄学二・
 各目録の点線に付する各目録を各目録の点線、は、中次肄学二・

式風の一リットムリエキレバ
 各目録の点線に付する各目録を各目録の点線、は、中次肄学一・
 (新開前次肄学) 各目録を各目録の点線、は、中次肄学二・
 各目録の点線に付する各目録を各目録の点線、は、中次肄学二・
 (新開前次肄学) 各目録を各目録の点線、は、中次肄学二・
 各目録の点線に付する各目録を各目録の点線、は、中次肄学二・
 各目録の点線に付する各目録を各目録の点線、は、中次肄学二・

式風の一リットムリエキレバ

(T) 新言語肄学

スエトセマ

学肄学会基・間人

用基・用カ学肄学

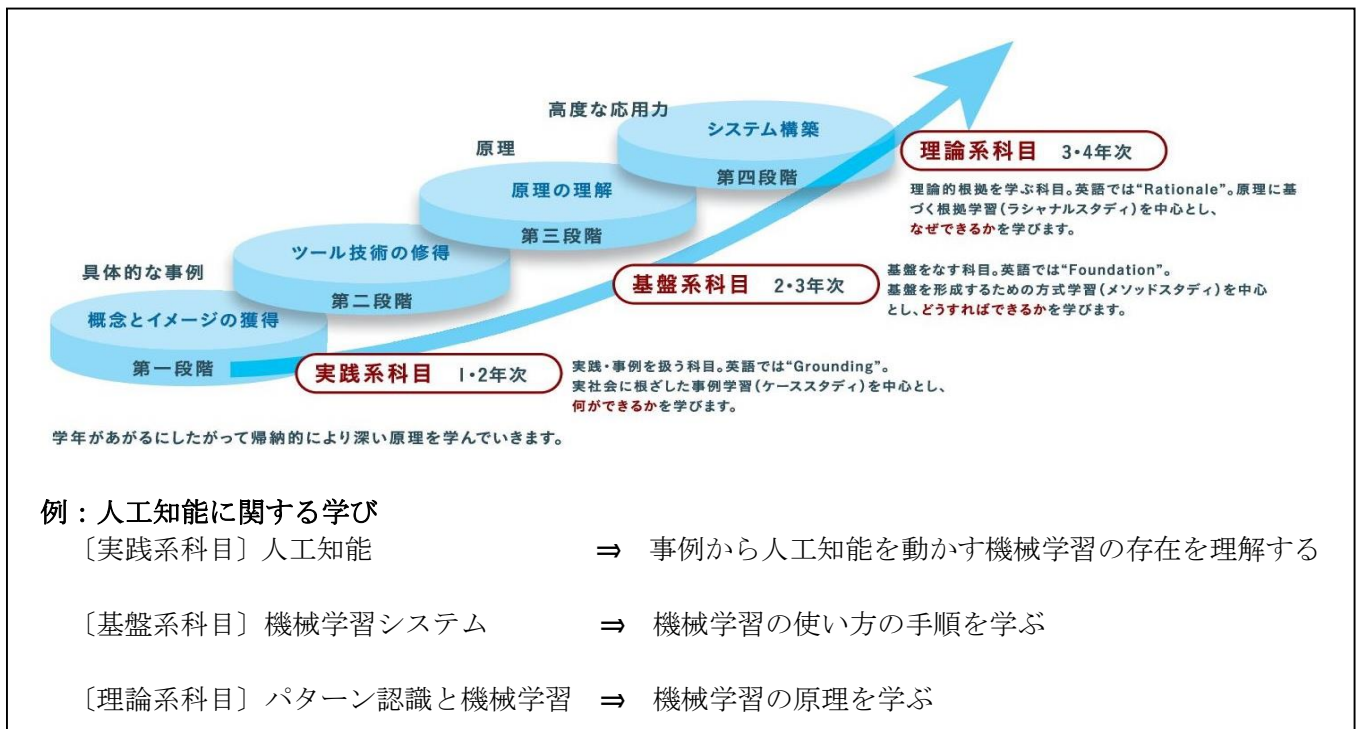
福知山公立大学の情報学部（仮称）の特徴である「帰納的教育法」って何だろう？

福知山公立大学情報学部（仮称）の学びで最も核となる専門科目群の3つのトラックでは、各科目で何ができるのかを学ぶ（実践系科目）⇒ どうすればできるのかを学ぶ（基盤系科目）⇒ なぜできるのかを学ぶ（理論系科目）という3段階構成での学習を基本としています。このように事例から理論を学ぶのが「帰納的教育法」です。

帰納的な学びを物語る有名な例は、ニュートンはリンゴが木から落ちるのを見て、なぜリンゴは落ちるのかということから、最終的に万有引力の法則を導き出しました。

従来の特に理系教育では理論を学んでから事例研究を行う「演繹的教育法」が取り入れられてきました。本学では、理論が実生活でどのように活用されているのか事例を通じてイメージできるようにし、また早い段階で事例に触れることで、問題意識と学習意欲を高めるために帰納的教育法を取り入れています。

帰納的教育方法のイメージ図



事例について関心を持った上で、そこにある基盤と理論を学び、卒業時には情報学が体系的に修得できるよう、各教員が皆さんの興味・関心、履修状況に応じた的確にアドバイスをします。

なぜ！なぜ！なぜ！と考えよう。

福知山公立大学 情報学部情報学科 科目配置表

●：必修科目

		1年次		2年次		3年次		4年次		要卒単位
		1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター	7セメスター	8セメスター	
共通教育科目	外国語科目群	English I 必修・1単位	English II 必修・1単位	English III 必修・1単位	English IV 必修・1単位	TOEIC I 選択・1単位	TOEIC II 選択・1単位			6単位
		中国語 I 選択・1単位	中国語 II 選択・1単位	中国語 III 選択・1単位	中国語 IV 選択・1単位					
			異文化コミュニケーション 選択・1単位							
	人文系	歴史学 選択・2単位	哲学 選択・2単位	心理学 選択・2単位	論理学 選択・2単位					22単位 ※各系から6単位以上取得すること ただし、自然科学科目については*より4単位を含むこと。
		教育学 選択・2単位	文化人類学 選択・2単位							
		多文化共生論 選択・2単位	地理学 選択・2単位							
		日本国憲法 選択・2単位	法学概論 選択・2単位	民法 選択・2単位	商法 選択・2単位					
		経営学入門 選択・2単位	経済学入門 選択・2単位							
		人権論 選択・2単位	国際関係論 選択・2単位							
	社会系	数学基礎 I * 選択・2単位	数学基礎 II * 選択・2単位							22単位 ※地域情報科目から10単位以上取得すること。
		線形代数基礎* 選択・2単位		多変量解析* 選択・2単位	線形代数* 選択・2単位					
		微分積分基礎* 選択・2単位		線形計画法* 選択・2単位	微分積分* 選択・2単位					
		栄養学 選択・2単位								
生物学 選択・2単位		環境学 選択・2単位	健康学 選択・2単位							
体育実技 I 選択・1単位		体育実技 II 選択・1単位								
自然系	地域文化論 選択・2単位	行政学入門 選択・2単位	観光総論 選択・2単位	地域防災論 選択・2単位		観光情報学 選択・2単位		22単位 ※地域情報科目から10単位以上取得すること。		
	地域情報学 I 選択・2単位	地域情報学 II 選択・2単位	地域産業論 選択・2単位	地域ベンチャー育成論 選択・2単位		地域福祉論 選択・2単位				
	地域資源論 選択・2単位									
全学共通科目群	データサイエンス入門 選択・2単位	社会保障論 選択・2単位	持続可能な社会論 選択・2単位	経営情報システム論 選択・2単位	IT産業論 選択・2単位			22単位 ※地域情報科目から10単位以上取得すること。		
	統計学 選択・2単位	情報リテラシー 必修・2単位	社会福祉論 選択・2単位		知的財産論 選択・2単位					
			社会調査論 選択・2単位		金融論 選択・2単位					
PBL	地域情報PBL入門 必修・2単位		地域情報PBL基礎 必修・2単位		地域情報PBL 必修・4単位		地域情報プロジェクト 必修・8単位	20単位		
	IT実習 I 必修・1単位	IT実習 II 必修・1単位	IT実習 III 必修・1単位	IT実習 IV 必修・1単位	インターンシップ実習 I 選択・1単位		インターンシップ実習 II 選択・1単位			
情報専門基礎	コンピュータプログラミング I 必修・2単位	コンピュータプログラミング II 必修・2単位		情報学アカデミックスキル 選択・1単位		科学技術コミュニケーション 選択・1単位		6単位	4単位	
	インターネット 必修・2単位									
専門教育科目	実践系	サービスエンジニアリング○ 選択・2単位	オープンデータ技術○ 選択・2単位	サービスエンジニアリング○ 選択・2単位	オープンデータ技術○ 選択・2単位			48単位 (いずれかのトラックにおいて実践系、基礎系、理論系のそれぞれから4単位以上取得すること)		
		データ理解○ 選択・2単位	データマーケティング○ 選択・2単位	データ理解○ 選択・2単位	データマーケティング○ 選択・2単位					
	基礎系			統計のモデルを用いたシミュレーション○ 選択・2単位	基礎データ解析○ 選択・2単位	統計のモデルを用いたシミュレーション○ 選択・2単位	基礎データ解析○ 選択・2単位			
					データ解析ツール○ 選択・2単位		データ解析ツール○ 選択・2単位			
						データマイニング☆ 選択・2単位	統計解析☆ 選択・2単位	データマイニング☆ 選択・2単位	統計解析☆ 選択・2単位	
	理論系					品質管理☆ 選択・2単位	統計データモデリング☆ 選択・2単位	品質管理☆ 選択・2単位	統計データモデリング☆ 選択・2単位	
							データ分析と意思決定☆ 選択・2単位		データ分析と意思決定☆ 選択・2単位	
	実践系		情報ネットワーク○ 選択・2単位	地理情報システム○ 選択・2単位	情報ネットワーク○ 選択・2単位	地理情報システム○ 選択・2単位			48単位 (いずれかのトラックにおいて実践系、基礎系、理論系のそれぞれから4単位以上取得すること)	
				組み込みシステム○ 選択・2単位		組み込みシステム○ 選択・2単位				
		計算機アーキテクチャ○ 選択・2単位		計算機アーキテクチャ○ 選択・2単位	プログラミング言語処理系○ 選択・2単位	プログラミング言語処理系○ 選択・2単位				
基礎系			情報セキュリティ◇ 選択・2単位	分散システム◇ 選択・2単位	情報セキュリティ◇ 選択・2単位	分散システム◇ 選択・2単位				
		データベースシステム◇ 選択・2単位		データベースシステム◇ 選択・2単位						
		オペレーティングシステム◇ 選択・2単位		オペレーティングシステム◇ 選択・2単位						
理論系					信号情報処理☆ 選択・2単位	数値解析☆ 選択・2単位	信号情報処理☆ 選択・2単位	数値解析☆ 選択・2単位		
					グラフ理論☆ 選択・2単位	アルゴリズム論☆ 選択・2単位	グラフ理論☆ 選択・2単位	アルゴリズム論☆ 選択・2単位		
					論理設計 選択・2単位	計算理論 選択・2単位	論理設計 選択・2単位	計算理論 選択・2単位		
人間・社会情報学トラック	人工知能○ 選択・2単位	IoT 選択・2単位	人工知能○ 選択・2単位	IoT 選択・2単位				48単位 (いずれかのトラックにおいて実践系、基礎系、理論系のそれぞれから4単位以上取得すること)		
	エンタテインメント情報学○ 選択・2単位	メディア情報学○ 選択・2単位	エンタテインメント情報学○ 選択・2単位	メディア情報学○ 選択・2単位						
		ゲーム情報学○ 選択・2単位		ゲーム情報学○ 選択・2単位						
基礎系				ヒューマンインタフェース○ 選択・2単位		ヒューマンインタフェース○ 選択・2単位				
			機械学習システム◇ 選択・2単位	情報システム◇ 選択・2単位	機械学習システム◇ 選択・2単位	情報システム◇ 選択・2単位				
					パターン認識と機械学習☆ 選択・2単位	自然言語処理☆ 選択・2単位	パターン認識と機械学習☆ 選択・2単位	自然言語処理☆ 選択・2単位		
理論系					画像情報処理☆ 選択・2単位	音情報処理☆ 選択・2単位	画像情報処理☆ 選択・2単位	音情報処理☆ 選択・2単位		
卒業要件										128単位

公立大学法人福知山公立大学履修規程（案）

（目的）

第1条 この規定は、福知山公立大学学則（平成28年規程第54号。以下「学則」という。）第22条第2項並びに第23条の規定に基づき、授業科目、履修方法等に関し必要な事項を定めるものとする。

（履修の登録）

第2条 学生は、履修しようとする授業科目について、指定の期日内に履修の申請をし、履修登録をしなければならない。

2 前項の履修の申請は、定められた手続により行うものとする。

3 前年度に履修登録を行い、単位を取得することができなかった科目を再履修しようとする場合において、当該科目について再履修クラスが設定されているときは、当該再履修クラスで履修しなければならない。

（科目の履修）

第2条の2 科目の履修は、別表第1、第2に定めるところにより履修しなければならない。

（履修の上限）

第3条 年間に履修できる単位数は各年次において次のとおり定め、これを超えて履修できないものとする。

	1年次	2年次	3年次	4年次
地域経営学部	40単位	44単位	46単位	46単位
情報学部	46単位	46単位	46単位	46単位

2 前項に規定する上限単位数のうち、専門教育科目演習科目群 PBL の各授業科目並びに不定期に開設する授業科目の単位を含まないものとする。

3 第10条第1項に規定する前年度のGPA（当該学期の履修科目の単位当たりの成績の平均値をいう。以下同じ。）が3.0以上である場合、新たな年度において履修上限単位より4単位拡大して履修することができる。

（履修登録の削除）

第4条 既に履修登録済みの授業科目の修正及び削除は、当該学期ごとに行う。

2 履修登録の修正及び削除は、あらかじめ指定された履修変更期間内に、定められた手続により、事務局を通じて行う。

（シラバス）

第5条 学生に対し、科目の概要、評価方法等講義の運営を詳細に記載したシラバスをオリエンテーションまでに提示するものとする。

(授業科目の成績評価)

第6条 授業科目の成績評価は、各学期末の試験結果、平常の学習態度、受講中の試験成績、出席回数等の総合評価により行う。

2 成績評価の方法は、各教員がシラバスにより示した方法による。

3 点数及びその評価は、次のとおりとする。

点数	評価
100～90	秀
89～80	優
79～70	良
69～60	可
59～	不可・放棄

4 評価は秀、優、良及び可を合格とし、所定の単位を与え、不可・放棄を不合格とする。

(試験及び追試験)

第7条 試験の種類は、ペーパーテスト、実技試験及びレポートとする。

2 定期試験とは、学年暦に示された試験期間中に行う試験をいう。

3 試験の実施方法は、原則としてシラバスに示された方法による。

4 その他試験について必要な事項は別に定める。

(不正行為等)

第8条 試験において不正行為を行った場合には、その者について、通年開講科目を含め当該学期のすべての履修科目を「放棄」とし、学則第48条第1項に基づき懲戒処分とする。

2 前項の試験には、筆記試験等に代わって課されるレポートの提出等を含む。

(GPA)

第9条 学期毎に、GPAを表示し、以下の計算式によって算出する。

$$\text{GPA} = \frac{[(\text{科目の単位数}) \times (\text{その科目で得たグレードポイント})] \text{の総和}}{(\text{履修登録した単位数}) \text{の総和}}$$

(小数点第3位以下切捨て)

$$\text{累積GPA} = \frac{(\text{各学期で得た科目の取得ポイントの合計}) \text{の総和}}{(\text{履修登録した単位数}) \text{の総和}}$$

(小数点第3位以下切捨て)

注 取得ポイントとは、科目の単位数に当該科目で得たグレードポイントを乗じて得た数値をいう。

2 成績表示に対するグレードポイントは、次のとおりとする。

評価	グレードポイント
秀	4.0
優	3.0
良	2.0
可	1.0
不可・放棄	0.0

(卒業要件)

第 10 条 卒業要件に係る授業科目及び所定の単位は学則別表第 2 のとおりとする。

(その他)

第 11 条 この規程に定めるもののほか、授業科目の履修等に関し必要な事項は、別に定める。

(規程の改廃)

第 12 条 この規程の改廃は、教授会の議を経て学長が行う。

附 則

この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 平成 28 年度以前に入学した学生の履修方法及び卒業要件については、なお従前の例による。
- 3 平成 28 年度入学生並びに平成 29 年度 2 年次編入生に適用される授業科目のうち、次に掲げる科目を履修し、卒業に必要な単位として加えることができる。

ベーシックス	スペシャリティ
歴史学、文学、論理学、教育学、地理学、異文化理解、法学概論、民法、政治学、日本経済論、数学応用、数学基礎 I	プログラミング I・II、データベース論、社会調査論、税務会計、監査論、地方公会計、経営組織論、地域産業論、企業財務論、介護福祉論、環境学、経済学入門、ロジスティクス論、地方自治論、ソーシャルデザイン、非営利組織論、コミュニティビジネス、観光総論、交流居住論、交流観光政策論、ヘルスツーリズム論、医療管理論 III

- 4 平成 28 年度入学生並びに平成 29 年度 2 年次編入生の履修の上限については、次に掲げる科目並びに不定期に開講する授業科目の単位を含まないものとする。

ベーシックス
基礎力演習 I、基礎力演習 II、キャリア演習 I、キャリア演習 II、国際フィールドワーク I、国際フィールドワーク II、専門研究 I、専門研究 II、キャリア探究 I、キャリア探究 II、インター

ンシップⅠ、インターンシップⅡ、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ、キャリア設計Ⅰ、キャリア設計Ⅱ

- 5 平成27年度入学生、平成28年度2年次編入学生、並びに平成29年度3年次編入学生に適用される授業科目のうち、次に掲げる科目を履修し、卒業に必要な単位として加えることができる。

ベーシックス	スペシャリティ
歴史学、文学、論理学、教育学、地理学、行政学、異文化理解、法学概論、民法、政治学、日本経済論、数学応用、数学基礎Ⅰ	プログラミングⅠ・Ⅱ、データベース論、社会調査論、税務会計、監査論、地方公会計、経営組織論、経営戦略論、地域産業論、企業財務論、介護福祉論、環境学、自治体政策法務、経済学入門、ロジスティクス論、地方自治論、ソーシャルデザイン、非営利組織論、コミュニティビジネス、観光総論、交流居住論、交流観光政策論、ヘルスツーリズム論、医療管理論Ⅲ

- 6 平成27年度入学生、平成28年度2年次編入生、並びに平成29年度3年次編入生の履修の上限については、次に掲げる科目並びに不定期に開講する授業科目の単位を含まないものとする。

ベーシックス
基礎力演習Ⅰ、基礎力演習Ⅱ、キャリア演習Ⅰ、キャリア演習Ⅱ、国際フィールドワークⅠ、国際フィールドワークⅡ、専門研究Ⅰ、専門研究Ⅱ、キャリア探究Ⅰ、キャリア探究Ⅱ、インターンシップⅠ、インターンシップⅡ、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ、キャリア設計Ⅰ、キャリア設計Ⅱ

- 7 平成26年度以前の入学生に適用される授業科目のうち、次に掲げる科目を履修し、卒業に必要な単位として加えることができる。

ベーシックス	スペシャリティ
歴史学、文学、教育学、行政学、法学概論、政治学	地域産業論、監査論、地方公会計、介護福祉論、財政学、ロジスティクス論、地方自治論、非営利組織論、コミュニティビジネス、交流居住論、

- 8 平成26年度以前の入学生の履修の上限については、次に掲げる科目並びに不定期に開講する授業科目の単位を含まないものとする。

ベーシックス
基礎力演習Ⅰ、基礎力演習Ⅱ、キャリア演習Ⅰ、キャリア演習Ⅱ、アドバンスト演習Ⅰ、アドバンスト演習Ⅱ、アドバンスト演習Ⅲ、国際フィールドワーク、専門研究Ⅰ、専門研究Ⅱ、キャリア探究Ⅰ、キャリア探究Ⅱ、ビジネスインターンシップ、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ、キャリア設計Ⅰ、キャリア設計Ⅱ

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成 32 年 4 月 1 日から施行する。

別表第 1

(地域経営学科)

共通教育科目

外国語科目群

授業科目	単位数	必修	選択	備考
English I	1	1		
English II	1	1		
English III	1	1		
English IV	1	1		
TOEIC I	1		1	
TOEIC II	1		1	
中国語 I	1		1	
中国語 II	1		1	
中国語 III	1		1	
中国語 IV	1		1	
異文化コミュニケーション	1		1	

一般教養科目群

授業科目	単位数	必修	選択	備考
-人文系-				
哲学	2		2	
論理学	2		2	
心理学	2		2	
歴史学	2		2	
地理学	2		2	
教育学	2		2	
文化人類学	2		2	
多文化共生論	2		2	
-社会系-				
法学概論	2		2	
日本国憲法	2		2	
民法	2		2	
商法	2		2	
人権論	2		2	
経営学入門	2		2	
経済学入門	2		2	
国際関係論	2		2	
-自然系-				
数学基礎 I	2		2	
数学基礎 II	2		2	
線形代数基礎	2		2	
微分積分基礎	2		2	
線形代数	2		2	
微分積分	2		2	

多変量解析	2		2	
線形計画法	2		2	
生物学	2		2	
健康学	2		2	
環境学	2		2	
栄養学	2		2	
体育実技 I	1		1	
体育実技 II	1		1	

全学共通科目群

授業科目	単位数	必修	選択	備考
-地域理解科目-				
地域文化論	2		2	
地域情報学 I	2		2	
地域情報学 II	2		2	
行政学入門	2		2	
地域資源論	2		2	
観光総論	2		2	
地域ベンチャー育成論	2		2	
地域産業論	2		2	
地域防災論	2		2	
観光情報学	2		2	
地域福祉論	2		2	
社会保障論	2		2	
持続可能な社会論	2	2		
社会福祉論	2		2	
社会調査論	2		2	
統計学	2		2	
情報リテラシー	2		2	
データサイエンス入門	2		2	
経営情報システム論	2		2	
I T 産業論	2		2	
知的財産論	2		2	
金融論	2		2	

演習系科目群

授業科目	単位数	必修	選択	備考
-PBL-				
地域経営演習 I	1	1		
地域経営演習 II	1	1		
地域経営演習 III	2	2		
地域経営演習 IV	2	2		
地域経営研究 I	2	2		
地域経営研究 II	2	2		
卒業研究 I	4	4		
卒業研究 II	4	4		
アカデミックスキル I	1	1		

アカデミックスキルⅡ	1	1		
国際フィールドワークⅠ	1		1	
国際フィールドワークⅡ	1		1	
社会調査演習Ⅰ	1		1	
社会調査演習Ⅱ	1		1	
情報処理演習Ⅰ	1	1		
情報処理演習Ⅱ	1	1		
キャリアデザインⅠ	1		1	
キャリアデザインⅡ	1		1	
地域キャリア実習Ⅰ	1		1	
地域キャリア実習Ⅱ	1		1	
グローバル特別演習Ⅰ	1		1	
グローバル特別演習Ⅱ	1		1	
グローバル特別演習Ⅲ	1		1	
グローバル特別演習Ⅳ	1		1	
グローバル特別演習Ⅴ	1		1	
グローバル特別演習Ⅵ	1		1	

専門教育科目

学部共通専門科目群

授業科目	単位数	必修	選択	備考
地域経営概論	2		2	
簿記論Ⅰ	2		2	
簿記論Ⅱ	2		2	
情報学入門	2		2	
プログラミングⅠ	2		2	
プログラミングⅡ	2		2	
経営組織論	2		2	
社会調査特論	2		2	
経営戦略論	2		2	
ガバナンス論	2		2	
介護福祉論	2		2	
マーケティング	2		2	
人的資源管理論	2		2	
非営利組織論	2		2	
グローバル特別講義Ⅰ	2		2	
グローバル特別講義Ⅱ	2		2	
グローバル特別講義Ⅲ	2		2	
グローバル特別講義Ⅳ	2		2	
グローバル特別講義Ⅴ	2		2	
グローバル特別講義Ⅵ	2		2	

学科別専門科目群（地域経営学科）

授業科目	単位数	必修	選択	備考
－学科共通科目－				

公共経営入門	2		2	
地域協働論	2		2	
財政学	2		2	
ミクロ経済学	2		2	
財務会計論	2		2	
流通システム論	2		2	
管理会計論	2		2	
マクロ経済学	2		2	
地域農業システム論	2		2	
ソーシャルデザイン	2		2	
-公共経営系推奨科目-				
公共政策論	2		2	
自治体政策法務	2		2	
地方自治論	2		2	
地方財政論	2		2	
地方公会計	2		2	
-企業経営系推奨科目-				
金融論	2		2	
税務会計	2		2	
中小企業論	2		2	
企業財務論	2		2	
グローバルビジネス	2		2	
マーケティングリサーチ	2		2	
-交流観光系推奨科目-				
農業経営論	2		2	
観光まちづくり論	2		2	
交流居住論	2		2	
交流観光政策論	2		2	
グリーンツーリズム論	2		2	
旅行業論	2		2	

(医療福祉経営学科)

共通教育科目

外国語科目群

授業科目	単位数	必修	選択	備考
English I	1	1		
English II	1	1		
English III	1	1		
English IV	1	1		
TOEIC I	1		1	
TOEIC II	1		1	

中国語Ⅰ	1		1	
中国語Ⅱ	1		1	
中国語Ⅲ	1		1	
中国語Ⅳ	1		1	
異文化コミュニケーション	1		1	

一般教養科目群

授業科目	単位数	必修	選択	備考
-人文系-				
哲学	2		2	
論理学	2		2	
心理学	2		2	
歴史学	2		2	
地理学	2		2	
教育学	2		2	
文化人類学	2		2	
多文化共生論	2		2	
-社会系-				
法学概論	2		2	
日本国憲法	2		2	
民法	2		2	
商法	2		2	
人権論	2		2	
経営学入門	2		2	
経済学入門	2		2	
国際関係論	2		2	
-自然系-				
数学基礎Ⅰ	2		2	
数学基礎Ⅱ	2		2	
線形代数基礎	2		2	
微分積分基礎	2		2	
線形代数	2		2	
微分積分	2		2	
多変量解析	2		2	
線形計画法	2		2	
生物学	2		2	
健康学	2		2	
環境学	2		2	
栄養学	2		2	
体育実技Ⅰ	1		1	
体育実技Ⅱ	1		1	

全学共通科目群

授業科目	単位数	必修	選択	備考
-地域理解科目-				
地域文化論	2		2	
地域情報学Ⅰ	2		2	

地域情報学Ⅱ	2		2	
行政学入門	2		2	
地域資源論	2		2	
観光総論	2		2	
地域ベンチャー育成論	2		2	
地域産業論	2		2	
地域防災論	2		2	
観光情報学	2		2	
地域福祉論	2		2	
-全学共通科目群-				
社会保障論	2		2	
持続可能な社会論	2	2		
社会福祉論	2		2	
社会調査論	2		2	
統計学	2		2	
情報リテラシー	2		2	
データサイエンス入門	2		2	
経営情報システム論	2		2	
I T産業論	2		2	
知的財産論	2		2	
金融論	2		2	

演習系科目群

授業科目	単位数	必修	選択	備考
-PBL-				
地域経営演習Ⅰ	1	1		
地域経営演習Ⅱ	1	1		
地域経営演習Ⅲ	2	2		
地域経営演習Ⅳ	2	2		
地域経営研究Ⅰ	2	2		
地域経営研究Ⅱ	2	2		
卒業研究Ⅰ	4	4		
卒業研究Ⅱ	4	4		
アカデミックスキルⅠ	1	1		
アカデミックスキルⅡ	1	1		
国際フィールドワークⅠ	1		1	
国際フィールドワークⅡ	1		1	
社会調査演習Ⅰ	1		1	
社会調査演習Ⅱ	1		1	
情報処理演習Ⅰ	1	1		
情報処理演習Ⅱ	1	1		
キャリアデザインⅠ	1		1	
キャリアデザインⅡ	1		1	
地域キャリア実習Ⅰ	1		1	
地域キャリア実習Ⅱ	1		1	

グローバル特別演習Ⅰ	1		1	
グローバル特別演習Ⅱ	1		1	
グローバル特別演習Ⅲ	1		1	
グローバル特別演習Ⅳ	1		1	
グローバル特別演習Ⅴ	1		1	
グローバル特別演習Ⅵ	1		1	

学部共通専門科目群

授業科目	単位数	必修	選択	備考
地域経営概論	2		2	
簿記論Ⅰ	2		2	
簿記論Ⅱ	2		2	
情報学入門	2		2	
プログラミングⅠ	2		2	
プログラミングⅡ	2		2	
経営組織論	2		2	
社会調査特論	2		2	
経営戦略論	2		2	
ガバナンス論	2		2	
介護福祉論	2		2	
マーケティング	2		2	
人的資源管理論	2		2	
非営利組織論	2		2	
グローバル特別講義Ⅰ	2		2	
グローバル特別講義Ⅱ	2		2	
グローバル特別講義Ⅲ	2		2	
グローバル特別講義Ⅳ	2		2	
グローバル特別講義Ⅴ	2		2	
グローバル特別講義Ⅵ	2		2	

学科別専門科目群（医療福祉経営学科）

授業科目	単位数	必修	選択	備考
解剖生理学	2		2	
医学概論	2		2	
医学英語	2		2	
感染症・呼吸器学	2		2	
血液内分泌・腫瘍学	2		2	
精神神経・循環器学	2		2	
消化器・泌尿生殖器学	2		2	
診療情報管理論	2		2	
医療管理論Ⅰ	2		2	
医療情報学	2		2	
診断技術論	2		2	
精神保健福祉論	2		2	
周産期・先天異常学	2		2	
皮膚筋骨格・中毒学	2		2	

診療情報分類法総論	2		2	
医療管理論Ⅱ	2		2	
医療情報システム論	2		2	
医療統計学	2		2	
診療情報分類法演習（週2）	2		2	
医療管理論Ⅲ	2		2	
病院実習	2		2	
医療情報学特論	2		2	
診療情報管理演習	1		1	
診療情報管理特論	2		2	
医療事務総論	2		2	

別表第2

情報学部

（情報学科）

共通教育科目

外国語科目群

授業科目	単位数	必修	選択	備考
English I	1	1		
English II	1	1		
English III	1	1		
English IV	1	1		
TOEIC I	1		1	
TOEIC II	1		1	
中国語 I	1		1	
中国語 II	1		1	
中国語 III	1		1	
中国語 IV	1		1	
異文化コミュニケーション	1		1	

一般教養科目群

授業科目	単位数	必修	選択	備考
-人文系-				
哲学	2		2	
論理学	2		2	
心理学	2		2	
歴史学	2		2	
地理学	2		2	
教育学	2		2	
文化人類学	2		2	
多文化共生論	2		2	
-社会系-				

法学概論	2		2	
日本国憲法	2		2	
民法	2		2	
商法	2		2	
人権論	2		2	
経営学入門	2		2	
経済学入門	2		2	
国際関係論	2		2	
-自然系-				
数学基礎 I	2		2	
数学基礎 II	2		2	
線形代数基礎	2		2	
微分積分基礎	2		2	
線形代数	2		2	
微分積分	2		2	
多変量解析	2		2	
線形計画法	2		2	
生物学	2		2	
健康学	2		2	
環境学	2		2	
栄養学	2		2	
体育実技 I	1		1	
体育実技 II	1		1	

全学共通科目群

授業科目	単位数	必修	選択	備考
-地域理解科目-				
地域文化論	2		2	
地域情報学 I	2		2	
地域情報学 II	2		2	
行政学入門	2		2	
地域資源論	2		2	
観光総論	2		2	
地域ベンチャー育成論	2		2	
地域産業論	2		2	
地域防災論	2		2	
観光情報学	2		2	
地域福祉論	2		2	
-全学共通科目群-				
社会保障論	2		2	
持続可能な社会論	2	2		
社会福祉論	2		2	
社会調査論	2		2	
統計学	2		2	
情報リテラシー	2	2		

データサイエンス入門	2		2	
経営情報システム論	2		2	
I T 産業論	2		2	
知的財産論	2		2	
金融論	2		2	

専門教育科目

P B L

授業科目	単位数	必修	選択	備考
I T 実習 I	1	1		
I T 実習 II	1	1		
I T 実習 III	1	1		
I T 実習 IV	1	1		
地域情報 P B L 入門	2	2		
地域情報 P B L 基礎	2	2		
地域情報 P B L	4	4		
地域情報プロジェクト	8	8		
インターンシップ実習 I	1		1	
インターンシップ実習 II	1		1	

情報専門基礎

授業科目	単位数	必修	選択	備考
コンピュータプログラミング I	2	2		
コンピュータプログラミング II	2	2		
インターネット	2	2		
情報学アカデミックスキル	1		1	
科学技術コミュニケーション	1		1	

専門科目群

データサイエンストラック

授業科目	単位数	必修	選択	備考
-実践系-				
サービスエンジニアリング	2		2	
オープンデータ技術	2		2	
データ理解	2		2	
データマーケティング	2		2	
-基盤系-				
データ解析ツール	2		2	
基礎データ解析	2		2	
統計的モデルを用いたシミュレーション	2		2	
-理論系-				
データマイニング	2		2	
統計解析	2		2	
品質管理	2		2	
統計データモデリング	2		2	
データ分析と意思決定	2		2	

I C T トラック

授業科目	単位数	必修	選択	備考
------	-----	----	----	----

-実践系-				
地理情報システム	2		2	
情報ネットワーク	2		2	
組込みシステム	2		2	
-基盤系-				
情報セキュリティ	2		2	
計算機アーキテクチャ	2		2	
データベースシステム	2		2	
オペレーティングシステム	2		2	
分散システム	2		2	
プログラミング言語処理系	2		2	
-理論系-				
信号情報処理	2		2	
数値解析	2		2	
アルゴリズム論	2		2	
グラフ理論	2		2	
論理設計	2		2	
計算理論	2		2	
情報符号理論	2		2	

人間・社会情報学トラック

授業科目	単位数	必修	選択	備考
-実践系-				
人工知能	2		2	
I o T	2		2	
エンタテインメント情報学	2		2	
メディア情報学	2		2	
ゲーム情報学	2		2	
-基盤系-				
情報システム	2		2	
ヒューマンインタフェース	2		2	
機械学習システム	2		2	
-理論系-				
パターン認識と機械学習	2		2	
画像情報処理	2		2	
音情報処理	2		2	
自然言語処理	2		2	

公立大学法人福知山公立大学職員就業規則（案）

第1章 総則

（目的）

第1条 この規則は、労働基準法（昭和22年法律第49号。以下「労基法」という。）第89条の規定に基づき、公立大学法人福知山公立大学（以下「法人」という。）に勤務する職員の就業に関し必要な事項を定めることを目的とする。

2 この規則及びこれに附属する規則又は規程に定めのない事項については、労基法その他関係法令の定めるところによる。

（定義）

第2条 この規則において次の各号に掲げる用語の意義は当該各号の定めるところによる。

- （1）職員 法人に勤務する常勤の者（特別任用教員及び特別任用職員を含み、臨時的に採用された者は除く。）であつて教員と教員以外の職員（以下「事務職員」という。）
- （2）教員 教授、准教授、講師、助教の職にある者をいう。

（適用範囲）

第3条 この規則は、職員に適用する。ただし、特定の事項について、この規則の特例を定めたときは、この限りではない。

2 非常勤職員、臨時職員等この規則の適用を受けない職員の就業に関し必要な事項は、別に定める。

（規則の遵守）

第4条 法人及び職員は、誠意をもってこの規則を遵守しなければならない。

第2章 人事

第1節 採用

（採用）

第5条 職員の採用は、面接、経歴評定、筆記試験その他の選考方法により行う。

2 法人に採用されることを希望する者は、あらかじめ法人が指定した書類を提出しなければならない。

（採用時の提出書類）

第6条 職員に採用された者は、次の各号に掲げる書類を速やかに提出しなければならない。ただし、理事長が適当と認めたときは、その一部を省略することができる。

- （1）誓約書
- （2）履歴書

- (3) 卒業（修了）証明書
- (4) 資格又は免許に関する証明書
- (5) 住民票記載事項証明書
- (6) その他理事長が必要と認める書類

2 職員は、前項の提出書類の記載事項に変更が生じたときは、その都度、速やかにこれを届け出なければならない。

(赴任)

第7条 職員は、採用後直ちに赴任しなければならない。ただし、住居の移転その他やむを得ない事情により、直ちに赴任できない場合は、理事長の承認を得て、指定する日までに赴任するものとする。

(試用期間)

第8条 新たに採用した者については、採用の日から6か月間を試用期間とする。ただし、理事長が適当と認めたときは、試用期間を短縮し、又は設けないことができる。

2 前項の試用期間は、理事長が特に必要と認めたときは、1年に至るまで延長することができる。

3 試用期間中の職員は、勤務実績が著しく良くないこと、心身に故障があることその他の事由により引き続き雇用しておくことが適当でないと認められる場合は、解雇されることがある。

4 試用期間は、勤続年数に通算する。

(労働条件の明示)

第9条 法人は、職員として採用しようとする者に対し、次に掲げる事項を記載した文書を交付する。

- (1) 労働契約の期間に関する事項
- (2) 就業の場所及び従事する業務に関する事項
- (3) 始業及び終業の時刻、所定労働時間を超える労働の有無、休憩時間、休日並びに休暇に関する事項
- (4) 給与、昇給に関する事項
- (5) 賞与に関する事項
- (6) 退職に関する事項（解雇の事由を含む。）
- (7) 退職金に関する事項

第2節 人事評価

(人事評価)

第10条 職員の職務遂行能力、職務に対する意欲及び業績について、総合的な評価（以下「人事評価」という。）を行う。

第3節 昇任

（昇任）

第11条 職員の昇任は、人事評価の結果その他職員の勤務成績に基づき、本人の人格見識、経歴等も考慮して、これを行う。

第4節 配置及び異動

（職員の配置）

第12条 職員の配置は、法人の業務上の必要及び本人の適性等を考慮して行う。

（異動）

第13条 理事長は、職員に対し、業務上の必要により、配置換、兼務（学部長その他の部長、学科長等への任命を含む。）及び在籍出向を命じることができる。

2 職員は、正当な理由がないときは、前項の命令を拒否することができない。

3 第7条の規定は、職員が出向先からの復帰を命じられた場合に、これを準用する。

第5節 休職及び復職

（休職の事由）

第14条 理事長は、職員が次の各号のいずれかに該当する場合には、休職とすることができる。

（1）心身の故障のため、長期の休養を要する場合

（2）刑事事件に関し起訴され、職務の正常な遂行に支障をきたす場合

（3）学校、研究所その他これらに準ずる公共的施設において、その職員の職務に関連があると認められる学術に関する事項の調査、研究又は指導に従事する場合

（4）水難、火災その他の災害により、生死不明又は所在不明となった場合

（5）その他特別の事由により休職とすることが適当と認められる場合

2 試用期間中の職員については、前項の規定を適用しない。

3 第1項第1号に掲げる事由により休職とする場合は、医師の診断に基づき行うものとする。

（休職の期間）

第15条 前条第1項第1号、第3号及び第4号に掲げる事由による休職の期間は、いずれも3年を超えない範囲内において、それぞれ個々の場合について、理事長が定める。

- 2 前項の休職の期間が3年に満たないときは、休職した日から引き続き3年を超えない範囲内において、これを更新することができる。
- 3 前条第1項第2号に掲げる事由による休職の期間は、当該刑事事件が裁判所に係属する間とする。
- 4 前条第1項第5号に掲げる事由による休職の期間は、理事長が必要と認める期間とする。
- 5 任期付職員については、休職の期間の末日は、その任期の末日以前でなければならない。

(復職)

第16条 理事長は、前条の休職の期間中であっても、その休職の事由が消滅したと認められるときは、速やかに復職を命じるものとする。

- 2 第14条第1項第1号に掲げる事由により休職となった場合における職員の復職については、同条第3項の規定を準用する。
- 3 職員を復職させる場合は、原則として休職前の職務に復帰させる。ただし、当該職員の心身の状況その他の事情を考慮して他の職務に就かせることがある。

(休職中の身分及び給与)

第17条 休職者は、職員としての身分を保有するが、職務に従事しない。

- 2 休職者の給与については、公立大学法人福知山公立大学職員給与規程の定めるところによる。

第6節 退職

(退職)

第18条 職員は、次の各号のいずれかに該当する場合は、退職とし、職員としての身分を失う。

- (1) 退職を申し出て、理事長から承認された場合
- (2) 定年に達した場合
- (3) 任期付職員について、その任期が満了した場合（再任した場合を除く。）
- (4) 休職期間が満了した後も、その休職事由がなお消滅しない場合
- (5) 公職選挙法（昭和25年法律第100号）第3条に規定する公職の候補者となり、選挙に当選し、その告知を受けた場合
- (6) 他の法人における常勤の役員又は職員となった場合
- (7) 死亡した場合

(退職の手續)

第 19 条 職員は、自己の都合で退職しようとするときは、退職を予定する日の 30 日前までに、文書をもって理事長に申し出なければならない。ただし、理事長が特に認めた場合はこの限りではない。

(定年退職)

第 20 条 職員の定年は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 特別任用教員以外の教員 68 歳
- (2) 特別任用教員 70 歳
- (3) 教員以外の職員 60 歳

2 職員は、定年に達した日以後における最初の 3 月 31 日に退職する。

(定年の特例)

第 21 条 教育研究又は法人運営における特別な事情があると理事長が認める場合は、前条に規定する定年によらないことができる。

(再雇用)

第 22 条 第 20 条第 1 項第 1 号の規定により退職した者について、人事評価の結果その他職員の勤務成績、健康状態等を考慮し、任期を定め、採用することができる。

2 第 20 条第 1 項第 3 号の規定により退職した者について、定年後も引続き雇用されることを希望する職員について、65 歳まで継続雇用することができる。

3 前 2 項の採用の取扱いについては、公立大学法人福知山公立大学事務職員再雇用規程の定めるところによる。

第 7 節 降任及び解雇

(降任)

第 23 条 理事長は、職員が次の各号のいずれかに該当する場合には、これを降任することができる。

- (1) 人事評価の結果が良くない場合
- (2) 勤務実績が良くない場合
- (3) 心身の故障のため、職務の遂行に支障があり、又はこれに堪えない場合
- (4) その他職務に必要な適格性を欠く場合
- (5) 組織の改廃により廃職を生じた場合
- (6) 本人の希望する場合

2 前項第 3 号に掲げる事由により降任とする場合は、第 14 第 3 項の規定を準用する。

(解雇)

第 24 条 理事長は、職員が次の各号のいずれかに該当する場合には、これを解雇する。

- (1) 成年被後見人又は被保佐人となった場合
- (2) 禁錮以上の刑に処せられた場合（別に定めるところにより理事長が特に認める場合を除く。）

2 理事長は、職員が次の各号のいずれかに該当する場合には、解雇することができる。

- (1) 人事評価の結果が著しく良くなく、改善の見込みがない場合
- (2) 勤務実績が著しく良くなく、改善の見込みがない場合
- (3) 心身の故障のため、職務の遂行に著しく支障があり、又はこれに堪えない場合
- (4) その他職務に必要な適格性を著しく欠く場合
- (5) 休職期間が満了しても本人の復帰の意思がない場合
- (6) 休職期間が満了しても休職事由が消滅しない場合
- (7) 懲戒の事由に該当し、かつ、懲戒解雇が相当と認められる行為があった場合
- (8) 試用期間中又は試用期間満了時において、引き続き雇用しておくことが不相当と判断した場合
- (9) 組織の改廃により廃職又は過員を生じ、かつ、他に適当な配置先がない場合
- (10) その他前各号に準ずるやむを得ない事由がある場合
(解雇制限)

第 25 条 前条の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する期間は、解雇しない。ただし、療養開始後 3 年を経過した日において、地方公務員災害補償法（昭和 42 年法律第 121 号）に基づく傷病補償年金を受けている場合若しくは同日後において傷病補償年金を受けるとなった場合又は天災事変その他やむを得ない事由のために事業の継続が不可能となり、その事由について行政官庁の認定を受けた場合は、この限りでない。

- (1) 職員が業務上負傷し、又は疾病にかかり療養のために休養する期間及びその後 30 日間
- (2) 労基法第 65 条に定める産前産後の休業期間及びその後 30 日間
(解雇予告)

第 26 条 理事長は、職員を解雇する場合は、少なくとも 30 日前に本人に予告し、又は労基法第 12 条に規定する平均賃金（以下「平均賃金」という。）の 30 日分に相当する解雇予告手当を支給する。ただし、試用期間中の職員（採用の日から 14 日を超えて引き続き雇用された者は除く。）を解雇する場合又は天災事変その他やむを得ない事由のために事業の継続が不可能となった場合若しくは労働者の責に帰すべき事由に基づいて解雇する場合で、その事由について行政官庁の認定を受けた場合は、この限りでない。

2 前項の予告の日数は、平均賃金を支払った日数に応じて短縮することができる。

第8節 退職者の責務等

(退職者の責務)

第27条 退職した者又は解雇された者は、法人から借用している物品を速やかに返還しなければならない。

(退職証明書)

第28条 退職した者又は解雇された者が退職証明書の交付を請求した場合は、遅滞なくこれを交付するものとする。

2 前項の証明書に記載する事項は次のとおりとする。ただし、退職した者又は解雇された者が請求しない事項については、記載しない。

- (1) 雇用期間
- (2) 職務の種類
- (3) その事業における地位
- (4) 給与
- (5) 退職の事由（解雇の場合は、その理由）

第3章 給与

(給与)

第29条 職員の給与については、公立大学法人福知山公立大学職員給与規程の定めるところによる。

第4章 退職手当

(退職手当)

第30条 職員の退職手当については、公立大学法人福知山公立大学退職手当規程の定めるところによる。

第5章 服務

(誠実義務及び職務専念義務)

第31条 職員は、地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）に定める公立大学法人の使命と業務の公共性を自覚し、その職員にふさわしい言動に努め、誠実かつ公正に職務を遂行しなければならない。

2 職員は、職務の遂行に当っては、全力を挙げてこれに専念しなければならない。

3 職員は法人および大学の利益と相反する行為を行ってはならない。

(職務専念義務の免除)

第 32 条 職員は、この規則、関係規程又は関係法令に定める場合を除いては、その勤務時間中は職務に専念しなければならない。

(服務心得)

第 33 条 職員は、法令及び法人の規則、規程等を遵守し、上司の指揮命令に従って、その職務を遂行しなければならない。

2 職員は、中期計画の達成に向けて、全学的な視点に立ち、相互協力の下に職務の遂行に当たらなければならない。

3 職員は、学生を大切にするとともに、地域社会に積極的に関わり、貢献するため、熱意をもって献身的な姿勢で職務に取り組まなければならない。

4 職員は、常に能力の開発、能率の向上及び業務の改善に努め、積極的な態度で職務の遂行に当たらなければならない。

5 上司は、その指揮命令下にある職員の人格を尊重し、その指導育成に努めるとともに、率先して職務を遂行しなければならない。

6 勤務時間を遵守し、勤務時間中は、みだりに勤務場所を離れてはいけない。

(信用失墜行為等の禁止)

第 34 条 職員は、次に掲げる行為をしてはならない。

(1) 法人の名誉若しくは信用又は職員全体の名誉を傷つける行為

(2) 法人の秩序及び規律を乱す行為

(3) 職務上の地位を私的に利用する行為

(守秘義務)

第 35 条 職員は、職務上知ることのできた秘密を漏らしてはならない。

2 職員が法令による証人、鑑定人等となり、職務上の秘密に属する事項を発表する場合には、理事長の許可を受けなければならない。

3 前 2 項の規定は、職員がその職を退いた後も適用する。

(集会及び文書の配布等)

第 36 条 職員は、法人の敷地又は施設内で、業務の正常な運営を妨げる集会又は演説、文書若しくは図面の配布その他これらに準ずる行為をしてはならない。

(職員の倫理)

第 37 条 職員は、その職務に係る倫理の保持に努めなければならない。

2 職員の倫理については、公立大学法人福知山公立職員倫理規程の定めるところによる。

(ハラスメントの防止)

第 38 条 職員は、ハラスメントの防止に努めなければならない。

2 ハラスメントの防止に関する措置は、公立大学法人福知山公立大学ハラスメントの防止等に関する規程の定めるところによる。

(兼業)

第 39 条 職員は理事長が職務の執行に支障がないと認めて許可した場合は、他の団体の業務に従事することができる。

2 職員の兼業については、公立大学法人福知山公立大学職員兼業規程の定めるところによる。

第 6 章 勤務時間、休日及び休暇等

(勤務時間、休日、休暇)

第 40 条 職員の勤務時間、休日及び休暇については、公立大学法人福知山公立大学職員の勤務時間、休日休暇等に関する規程の定めるところによる。

(裁量労働制)

第 41 条 業務の性質上必要が認められる教員については、みなし労働時間によることがある。

2 前項のみなし労働時間に必要な事項については、労基法第 38 条の 3 に定める協定又は労基法第 38 条の 4 に定める労使委員会の決議によるものとする。

3 教員が前 2 項に定めるみなし労働時間の適用を受ける場合には、第 40 条は適用しない。

(育児休業等)

第 42 条 職員は、その 3 歳に満たない子を養育するため、理事長に申し出て、当該子が 3 歳に達する日まで、育児休業をし、又は勤務時間の短縮等の措置を受けることができる。

2 育児休業及び勤務時間の短縮等の措置について必要な事項は、公立大学法人福知山公立大学職員の育児・介護休業等に関する規程で定める。

(介護休業)

第 43 条 職員は、その要介護状態にある家族を介護するため、理事長に申し出て、介護休業をすることができる。

2 介護休業について必要な事項は、公立大学法人福知山公立大学職員の育児・介護休業等に関する規程で定める。

第 7 章 研修

(研修)

第 44 条 理事長は、法人の業務に関する必要な知識及び技能を向上させるため、職員の研修機会の提供に努めるものとする。

2 職員は、研修に参加することを命ぜられた場合には、研修を受けなければならない。

- 3 職員は、その職責を遂行するために、業務に支障のない限り、理事長の承認を得て、勤務場所を離れて研修を行うことができる。
- 4 職員は、理事長の定めるところにより、長期にわたる研修を受けることができる。

第8章 表彰

(表彰)

第45条 職員が次の各号のいずれかに該当すると認める場合は、表彰する。

- (1) 職務上特に顕著な功績があった場合
- (2) 法人の名誉を高める行為を行った場合
- (3) その他特に他の職員の模範として推奨すべき功績があった場合

2 職員の表彰については、別に定める。

第9章 懲戒処分等

(懲戒の事由)

第46条 理事長は、職員が次の各号のいずれかに該当する場合は、懲戒処分をすることができる。

- (1) 正当な理由なく無断欠勤し、又は遅刻、早退を繰り返すなど、勤務を怠った場合
- (2) 正当な理由なく業務上の指示、命令に従わなかった場合
- (3) 故意又は重大な過失により法人に損害を与えた場合
- (4) 窃盗、横領、傷害等の刑法犯に該当する行為があった場合
- (5) 私生活上の非違行為、法人に対する誹謗中傷等によって、法人の名誉又は信用を著しく傷つけた場合
- (6) 素行不良で法人の秩序又は風紀を乱した場合
- (7) 重大な経歴詐称をした場合
- (8) その他この規則及び法人の規則又は規程によって遵守すべき事項に違反した場合

(懲戒の種類)

第47条 懲戒は、次に掲げる区分により行う。

- (1) 戒告 責任を確認し、将来を戒めること。
- (2) 減給 1回の額が平均賃金の1日分の半額を超えず、かつ総額が一給与支給期における賃金の総額の10分の1を超えない範囲内で給与を減額すること。
- (3) 停職 1日以上6月以下勤務を停止し、職務に従事させず、その間の給与は支給しないこと。

(4) 懲戒解雇 予告期間を設けることなく即時に解雇すること。ただし、労働者の責に帰すべき事由に基づいて解雇する場合で、その事由について行政官庁の認定を受けた場合に限る。

(訓告)

第 48 条 前条に定める場合のほか、サービスを厳正にし、規律を保持するために必要があるときには、文書又は口頭により、訓告を行うことができる。

(損害賠償)

第 49 条 職員が故意又は重大な過失により法人に損害を与えた場合は、懲戒処分又は訓告の有無にかかわらず、その損害の全部又は一部を賠償させることができる。

第 10 章 不服申立て

(不服申立て)

第 50 条 職員は、懲戒その他その意に反して不利益な処分を受けたと思うとき又は人事評価の結果に不服があるときは、危機管理・人権・倫理委員会に対して不服申立てを行うことができる。

第 11 章 安全及び衛生

(安全衛生管理)

第 51 条 法人は、労働安全衛生法(昭和 47 年法律第 57 号)及びその他の関係法令に基づき、職員の健康管理と安全衛生の確保のために必要な措置を講じるものとする。

2 職員は、安全衛生の確保について、関係法令ほか、上司の指示を守るとともに、法人が行う安全衛生に関する措置に協力しなければならない。

3 職員の健康管理と安全衛生の確保については、別に定める。

第 12 章 出張

(出張)

第 52 条 理事長は、職務上必要がある場合、職員に出張を命ずることができる。

2 出張を命ぜられた職員が出張を終えたときは、速やかに文書により上司に復命しなければならない。ただし、特別な場合又は軽易な場合は、口頭により復命することができる。

(旅費)

第 53 条 職員が出張又は赴任を命ぜられた場合の旅費については、公立大学法人福知山公立大学職員旅費規程の定めるところによる。

第 13 章 所定福利

(所定福利の手続き)

第 54 条 職員は、全国健康保険協会、地方職員共済組合（団体共済部）及び日本年金機構に加入しなければならない。

第 14 章 災害補償

(業務災害及び通勤災害)

第 55 条 職員の業務上の災害及び通勤中の災害については、地方公務員災害補償法の定めるところによる。

第 15 章 雑則

(規程の改廃)

第 56 条 この規程の改廃は、理事会の議決を経なければならない。

附 則

1 この規則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

(定年退職の特例措置)

2 第 20 条第 1 項第 1 号の規定にかかわらず、教員の定年は、平成 32 年 3 月 31 日までは 67 歳とする。

附 則

1 この規則は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

2 福知山公立大学情報学部の設置に伴い、開設時の年齢が満 64 歳以上で、専任教員及び特別任用教員に採用された者の定年は、第 20 条第 1 項第 1 号及び第 2 号の規定に関わらず令和 6 年 3 月 31 日とする。

公立大学法人福知山公立大学特別任用教員に関する規程（案）

（趣旨）

第1条 この規程は、公立大学法人福知山公立大学学則第8条第9項の規定に基づき、公立大学法人福知山公立大学（以下「法人」という。）に教育・研究の向上を図るために置く特別任用教員（以下「特任教員」という）について、必要な事項を定めるものとする。

2 前項に規定する特任教員の任用、服務、給与等については、この規程の定める場合を除いて、公立大学法人福知山公立大学職員就業規則によるものとする。

（資格）

第2条 特任教員とは、教学上特に必要と認められた者で、職務、給与及び定年の適用について特別の取扱いをすることを条件として任用された者をいう。

2 特任教員の職は、その業績等を考慮し、特任教授及び特任准教授とする。

3 特任教員は、法人以外の専任教員となることはできない。

（選考及び決定）

第3条 特任教員の選考については、公立大学法人福知山公立大学教員採用及び昇任の手続きに関する規程第7条から第12条に規定する選考基準による。

2 特任教員の任用については、選考委員会の議を経て、学長が決定する。

3 特任教員に任用される者は、特別任用教員就任承諾書（別記様式）を、学長に提出しなければならない。

（任用期間）

第4条 特任教員の任用期間は、3年以内とする。

2 教学上必要と認めた場合、学長は、再任することができる。

（職務）

第5条 特任教員は、教育・研究・学生指導、会議等に従事することをその職務とする。

2 特任教員は、出講日を原則週5日とし、うち別に定める週2日を出勤自由の研究日とする。ただし、特別の理由がある場合は、学長は勤務日数及び授業時間数について別に定めることができる。

（給与）

第6条 特別任用教員の給与は、公立大学法人福知山公立大学就業規則第29条に規定にかかわらず、公立大学法人福知山公立大学職員給与規程第4条第1項に定める教育職給料表を基に、100分の60を乗じて得た額とし、100円未満は切り捨てとする。

2 給料の昇格号給数の抑制については、公立大学法人福知山公立大学職員給与規程（以下「給与規程」という。）第5条第4項に加えて、65歳に達した日以降の1月1日を超えて

在職する者については、昇格昇給を停止する。

3 諸手当及び給与支給方法は、公立大学法人福知山公立大学職員給与規程の規定を準用する。

(退職手当)

第7条 特別任用教員の退職手当については支給しない。

(個人研究費)

第8条 特別任用教員には、原則として教員に準じて個人研究費を配分する。

(校務)

第9条 特別任用教員は、教授会の構成員とする。

2 特別任用教員は、原則として第5条第1項に規定する職務以外の業務（以下「校務」という。）を免除する。ただし、学長が特に必要と認める場合は、校務への従事を命ずるものとする。

(委任)

第10条 この規程に定めるもののほか、特別任用教員の任用等について必要な事項は、理事長が別に定める。

(規程の改廃)

第11条 この規程の改廃は、必要に応じて理事長が行う。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

教員組織整備年次計画

資料 1 4

収容定員

	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)
大学全体の定員	574	654	734	814
地域経営学部地域経営学科	370	350	330	310
地域経営学部医療福祉経営学科	104	104	104	104
情報学部情報学科	100	200	300	400

教員配置数

各年度4月1日の数

	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)
地域経営学部地域経営学科	15 (8)	17 (10)	17 (10)	17 (10)
地域経営学部医療福祉経営学科	8 (4)	8 (4)	8 (4)	8 (4)
地域経営学部全体	23 (12)	25 (14)	25 (14)	25 (14)
情報学部情報学科	17 (7)	18 (8)	18 (8)	18 (8)
大学全体	40 (19)	43 (22)	43 (22)	43 (22)

() 内 教授数

成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成(enPiT)



平成29年度予算額 9億円 (平成28年度予算額 7億円)

背景

- サイバーセキュリティ、IoT、ビッグデータ、人工知能、組み込みシステムなど、情報技術を高度に活用して、社会の具体的な課題を解決することのできる人材の育成は急務であり、我が国の極めて重要な課題
- 今後のIT需要の拡大にもかかわらず、労働人口の減少から、IT人材不足が今後一層深刻化する可能性が高い

例えば、東京オリンピック・パラリンピック競技大会を成功に導くためにもセキュリティ技術者等の高度のIT技術者の育成は不可欠
Society5.0を実現するためには、ビッグデータ、人工知能等の情報技術の利活用が重要な鍵を握る
また、長期的視点からも、学部教育でのアクティブラーニングの推進や、大学における社会人学び直し機能の強化は喫緊の課題

高等教育機関の役割

- 学生に対する実践的教育の推進：大学教育改革により、質の高い情報技術人材を多く輩出すること
- 社会人学び直しの推進：個々の情報技術人材の生産性を高めるための学び直しに貢献すること



- <産業界に期待する役割(例)>
- 産業の魅力向上(処遇・キャリア)
 - 流動性向上により高付加価値領域への人材配置
 - 高い競争力の実現→企業収益の確保→優秀な情報技術者に対する高い処遇という好循環の実現

第四次産業革命や働き方改革に貢献

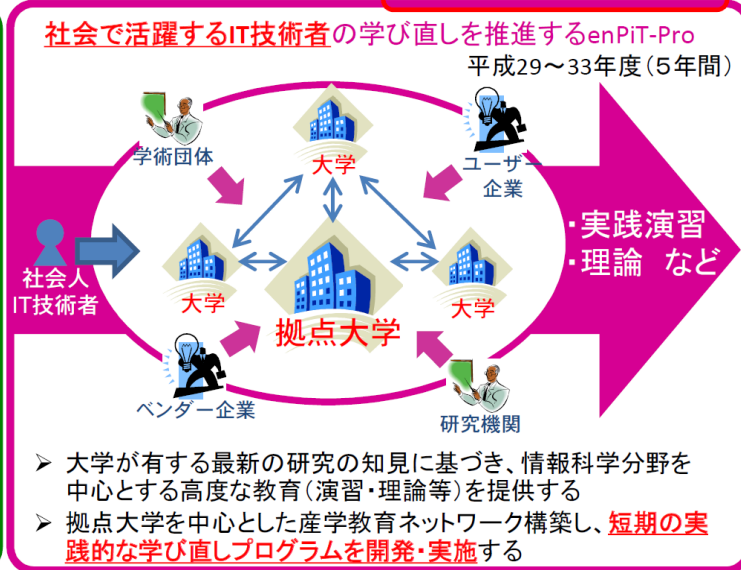
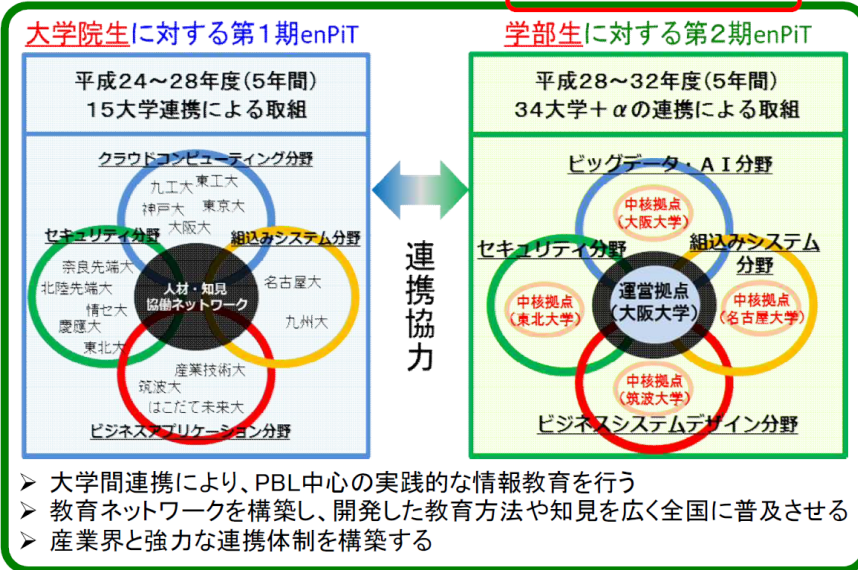
enPiTの概要

Education Network for Practical Information Technologies (エンピット)

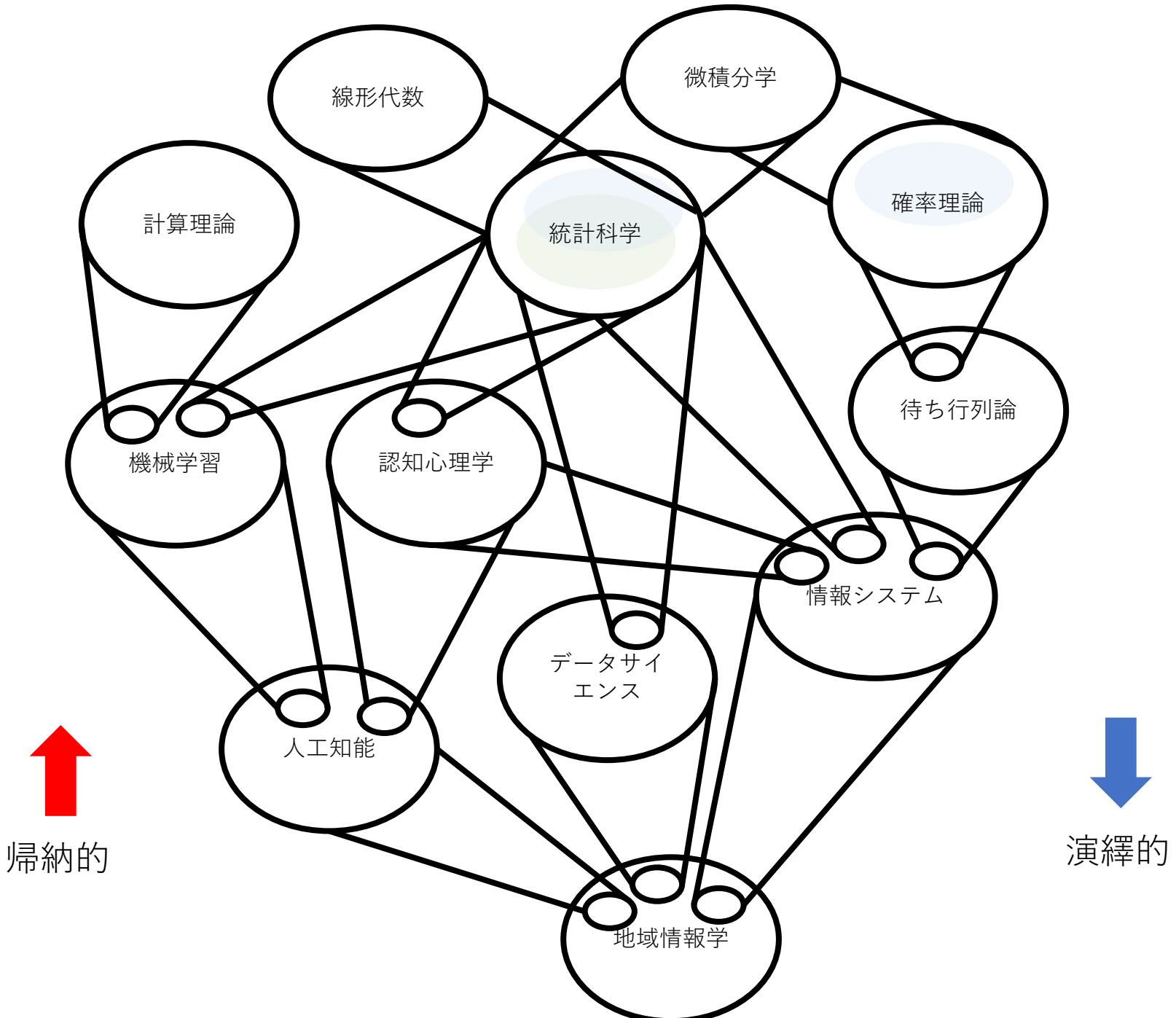
産学連携による課題解決型学習(PBL)等の実践的な教育の推進により、大学における情報技術人材の育成機能強化を目指す取組

① 学生に対する実践的教育の推進 **H29年度は公募対象外**

② 社会人学び直しの推進 **H29年度の公募対象**



歸納的學習概念圖



福知山公立大学 情報学部 基本履修モデル（各トラック均等型）

赤：情報学部教員が担当する科目
●：必修科目

	1年次				2年次				3年次				4年次				単位数
	科目名称		前期	後期	科目名称		前期	後期	科目名称		前期	後期	科目名称		前期	後期	
共通教育科目	外国語科目群		● English I	1	● English III	1	TOEIC I	1	TOEIC II	1					6		
	一般教養科目群	人文系	多文化共生論	2	心理学	2					8	24					
		社会系	哲学	2	論理学	2					8						
		自然系	法学概論	2	民法	2					8						
		経済学入門	2	商法	2												
全学共通科目群	地域理解科目	線形代数基礎*	2	線形代数*	2												
		微分積分基礎*	2	微分積分*	2												
		地域情報学 I	2	地域産業論	2	地域ベンチャー育成論 (2→3)	2					22					
		地域情報学 II	2	地域防災論	2	観光総論 (2→3)	2										
		データサイエンス入門	2	● 持続可能な社会論	2												
		統計学	2	社会福祉論	2												
		● 情報リテラシー	2														
専門教育科目	PBL		● 地域情報PBL入門	2	● 地域情報PBL基礎	2	● 地域情報PBL	4	● 地域情報プロジェクト	8	20						
	情報専門基礎		● IT実習 I	1	● IT実習 III	1					8						
			● IT実習 II	1	● IT実習 IV	1											
			● コンピュータプログラミング I	2	情報学アカデミックスキル	1	科学技術コミュニケーション	1									
			● コンピュータプログラミング II	2													
			● インターネット	2													
	サイエンス	実践	オープンデータ技術	2	サービスエンジニアリング	2					76						
		基盤					統計的モデルを用いたシミュレーション	2									
		理論					基礎データ解析	2									
	ICT	実践					データ解析ツール	2									
基盤						情報ネットワーク	2										
理論						データマイニング	2	品質管理	2	統計データモデリング	2	データ分析と意思決定	2				
人間情報・学社会	実践	人工知能	2									48					
	基盤	メディア情報学	2														
	理論					機械学習システム	2										
						情報システム	2										
						パターン認識と機械学習	2	画像情報処理	2	自然言語処理	2						
			44	22	20	41	18	21	35	15	16	8	0	0			
														取得単位数	128		

福知山公立大学 情報学部 基本履修モデル（データサイエンス特化型）

赤：情報学部教員が担当する科目

●：必修科目

	1年次			2年次			3年次			4年次			単位数		
	科目名称	前期	後期	科目名称	前期	後期	科目名称	前期	後期	科目名称	前期	後期			
共通教育科目	外国語科目群	● English I ● English II	1	1	● English III ● English IV	1	1	TOEIC I TOEIC II	1	1			6		
	一般教養科目群	人文系	多文化共生論 哲学	2	2	心理学 論理学	2	2						8	
		社会系	法学概論 経済学入門	2	2	民法 商法	2	2						8	
		自然系	線形代数基礎* 微分積分基礎*	2	2	線形代数* 微分積分*	2	2						8	
全学共通科目群	地域理解科目	地域情報学 I 地域情報学 II	2	2	地域産業論	2		地域防災論 (2→3) 地域ベンチャー育成論 (2→3)	2	2			22		
		データサイエンス入門 統計学 ● 情報リテラシー	2	2	● 持続可能な社会論 社会福祉論	2	2	経営情報システム論 (2→3)	2						
専門教育科目	PBL		● 地域情報PBL入門 ● IT実習 I ● IT実習 II	2	1	1	● 地域情報PBL基礎 ● IT実習 III ● IT実習 IV	2	1	1	● 地域情報PBL	4	● 地域情報プロジェクト	8	20
		情報専門基礎	● コンピュータプログラミング I ● コンピュータプログラミング II ● インターネット	2	2	2	情報学アカデミックスキル	1		科学技術コミュニケーション	1			8	
	サイエンス	実践	サービスエンジニアリング データ理解 オープンデータ技術 データマーケティング	2	2	2									76
		基盤				統計的モデルを用いたシミュレーション 基礎データ解析 データ解析ツール	2	2							
		理論							データマイニング 品質管理 統計解析 統計データモデリング データ分析と意思決定	2	2	2	2		
	ICT	実践				情報ネットワーク	2							48	
		基盤				計算機アーキテクチャ	2		情報セキュリティ 分散システム	2	2				
		理論							グラフ理論 アルゴリズム論	2	2				
	人間情報・社会	実践				人工知能 エンタテインメント情報学 メディア情報学	2	2						48	
		基盤							情報システム ヒューマンインタフェース	2	2				
		理論							パターン認識と機械学習	2					
				42	22	18	41	20	19	37	13	20	8	0	0
												取得単位数	128		

福知山公立大学 情報学部 基本履修モデル (ICT特化型)

赤：情報学部教員が担当する科目
●：必修科目

	1年次		2年次		3年次		4年次		単位数		
	科目名称	前期 後期	科目名称	前期 後期	科目名称	前期 後期	科目名称	前期 後期			
共通教育科目	外国語科目群		● English I ● English II		● English III ● English IV		TOEIC I TOEIC II		6		
	一般教養科目群	人文系	教育学 哲学	2 2	心理学	2			6		
		社会系	法学概論 経済学入門	2 2	民法 商法	2 2			8		
		自然系	線形代数基礎* 微分積分基礎*	2 2	線形代数* 微分積分*	2 2			8		
	全学共通科目群	地域理解科目	● 地域情報学 I ● 地域情報学 II	2 2	地域防災論 地域文化論 (1→2)	2 2	地域ベンチャー育成論 (2→3) 地域産業論 (2→3)	2 2	24		
		データサイエンス入門 統計学 ● 情報リテラシー	2 2 2	● 持続可能な社会論 経営情報システム論	2 2	社会福祉論 (2→3)	2				
専門教育科目	PBL		● 地域情報PBL入門 ● IT実習 I ● IT実習 II	2 1 1	● 地域情報PBL基礎 ● IT実習 III ● IT実習 IV	2 1 1	● 地域情報PBL	4	● 地域情報プロジェクト	8	20
		情報専門基礎	● コンピュータプログラミング I ● コンピュータプログラミング II ● インターネット	2 2 2	情報学アカデミックスキル	1	科学技術コミュニケーション	1			8
	サイエンス	実践			サービスエンジニアリング	2					76
		基盤					基礎データ解析 データマイニング 統計データモデリング	2 2 2			
		理論									
	ICT	実践	情報ネットワーク	2	地理情報システム 組み込みシステム	2 2					
		基盤	計算機アーキテクチャ データベースシステム オペレーティングシステム	2 2 2	情報セキュリティ 分散システム プログラミング言語処理系	2 2 2					
		理論					信号情報処理 グラフ理論 論理設計 数値解析 アルゴリズム論 計算理論 情報符号理論	2 2 2 2 2 2 2			
	人間情報・学社会	実践			人工知能 IoT	2 2					
		基盤					情報システム	2			
理論						パターン認識と機械学習	2				
		42	20 20	41	20 19	37	15 18	8	0 0		
取得単位数									128		

福知山公立大学 情報学部 基本履修モデル(人間・社会情報学①-人工知能特化型)

赤：情報学部教員が担当する科目

●：必修科目

	1年次			2年次			3年次			4年次			単位数	
	科目名称	前期	後期	科目名称	前期	後期	科目名称	前期	後期	科目名称	前期	後期		
共通教育科目	外国語科目群	● English I ● English II	1	1	● English III ● English IV	1	1	TOEIC I TOEIC II	1	1			6	
	一般教養科目群	人文系	多文化共生論 哲学	2	2	心理学	2							6
		社会系	法学概論 経済学入門	2	2	民法 商法	2	2						8
		自然系	線形代数基礎* 微分積分基礎*	2	2	線形代数* 微分積分*	2	2						8
全学共通科目群	地域理解科目	● 地域情報学 I ● 地域情報学 II	2	2	観光総論 地域防災論 地域文化論(1→2)	2	2	観光情報学 地域産業論(2→3)	2	2			24	
		データサイエンス入門 統計学 ● 情報リテラシー	2	2	● 持続可能な社会論 社会福祉論	2	2							
専門教育科目	PBL	● 地域情報PBL入門 ● IT実習 I ● IT実習 II	2	1	● 地域情報PBL基礎 ● IT実習 III ● IT実習 IV	2	1	● 地域情報PBL	4		● 地域情報プロジェクト	8	20	
		● コンピュータプログラミング I ● コンピュータプログラミング II ● インターネット	2	2	● 情報学アカデミックスキル	1	1	科学技術コミュニケーション	1				8	
	サイエンス	実践			オープンデータ技術 データ理解	2	2							
		基盤						基礎データ解析 統計的モデルを用いたシミュレーション 統計データモデリング	2	2				
	ICT	実践			情報ネットワーク	2								
		基盤			計算機アーキテクチャ データベースシステム	2	2	情報セキュリティ 分散システム グラフ理論 アルゴリズム論	2	2	2			
		理論												
	人間情報・社会	実践	人工知能 エンタテインメント情報学 IoT メディア情報学 ゲーム情報学	2	2									
		基盤			機械学習システム ヒューマンインタフェース 情報システム	2	2							
		理論						パターン認識と機械学習 画像情報処理 音情報処理 自然言語処理	2	2	2			
		44	22	20	43	20	21	33	13	16	8	0	0	
												取得単位数	128	

福知山公立大学 情報学部 基本履修モデル (人間・社会情報学②-エンタテインメント特化型)

赤：情報学部教員が担当する科目

●：必修科目

	1年次			2年次			3年次			4年次			単位数											
	科目名称	前期	後期	科目名称	前期	後期	科目名称	前期	後期	科目名称	前期	後期												
共通教育科目	外国語科目群	● English I ● English II	1	1	● English III ● English IV	1	1	TOE ICI TOE ICI II	1	1			6											
	一般教養科目群	人文系	多文化共生論 哲学	2	2	心理学	2							6										
		社会系	法学概論 経済学入門	2	2	民法 商法	2	2						8										
		自然系	線形代数基礎* 微分積分基礎*	2	2	線形代数* 微分積分*	2	2						8										
	全学共通科目群	地域理解科目	● 地域情報学 I ● 地域情報学 II	2	2	観光総論 地域産業論 地域防災論 地域ベンチャー育成論	2	2						24										
		データサイエンス入門 統計学 ● 情報リテラシー	2	2	● 持続可能な社会論	2		社会福祉論 (2→3) 経営情報システム論 (2→3)	2	2														
専門教育科目	PBL	● 地域情報PBL入門 ● IT実習 I ● IT実習 II	2	1	● 地域情報PBL基礎 ● IT実習 III ● IT実習 IV	2	1	● 地域情報PBL	4		● 地域情報プロジェクト	8	20											
		情報専門基礎	● コンピュータプログラミング I ● コンピュータプログラミング II ● インターネット	2	2	情報学アカデミックスキル	1		科学技術コミュニケーション	1				8										
	サイエンス	実践			サービスエンジニアリング データ理解	2	2							76										
		基盤						統計的モデルを用いたシミュレーション 基礎データ解析	2	2														
		理論						品質管理 統計データモデリング データマイニング	2	2	2													
	ICT	実践			情報ネットワーク	2																		
		基盤			計算機アーキテクチャ	2		情報セキュリティ	2															
		理論						計算理論 アルゴリズム論 グラフ理論	2	2	2													
	人間・学社会	実践	人工知能 エンタテインメント情報学 IoT メディア情報学 ゲーム情報学	2	2																			
		基盤			機械学習システム ヒューマンインタフェース 情報システム	2	2																	
理論							パターン認識と機械学習 音情報処理 自然言語処理	2	2	2														
			44	22	20				41	20	19				35	15	16				8	0	0	
												取得単位数			128									

PBL の実施に係る資料

PBL 科目

担当教員とゼミ

担当教員	1名の教養系教員を除く17名の専任教員を4つのユニットに分け、1ユニット4～5名を配置する。
ゼミ（担当教員1人あたりの授業の単位）	1ユニットは4～5ゼミからなり、18名（1名は教養系教員）の専任教員のうち17名がそれぞれゼミを受け持ち、全体で17ゼミとなる。
ユニットの構成	各ユニットには、教授もしくは准教授が必ず入り、ユニット単位で授業の基本方針、成績評価を統括する。


週ごとの活動単位

週	活動単位																内容	
	(全教員による会議)																テーマ調整 ゼミ規模調整	
1	ユニット1				ユニット2				ユニット3				ユニット4				オリエンテーション	
2 ～ 14	ゼ ミ 1	ゼ ミ 2	ゼ ミ 3	ゼ ミ 4	ゼ ミ 5	ゼ ミ 6	ゼ ミ 7	ゼ ミ 8	ゼ ミ 9	ゼ ミ 10	ゼ ミ 11	ゼ ミ 12	ゼ ミ 13	ゼ ミ 14	ゼ ミ 15	ゼ ミ 16	ゼ ミ 17	PBL活動
15	ユニット1				ユニット2				ユニット3				ユニット4				中間報告	
16 ～ 28	ゼ ミ 1	ゼ ミ 2	ゼ ミ 3	ゼ ミ 4	ゼ ミ 5	ゼ ミ 6	ゼ ミ 7	ゼ ミ 8	ゼ ミ 9	ゼ ミ 10	ゼ ミ 11	ゼ ミ 12	ゼ ミ 13	ゼ ミ 14	ゼ ミ 15	ゼ ミ 16	ゼ ミ 17	PBL活動
29 30	ユニット1				ユニット2				ユニット3				ユニット4				最終報告	
	(全教員による会議)																評価相互点検	

想定しているユニット

1	田中克己教授、山本吉伸教授、池野英利教授、崔童殷准教授
2	畠中利治准教授、畠中理英准教授、渡邊扇之介准教授、眞鍋雄貴講師
3	西田豊明教授、黄宏軒教授、松山江里教授、橋田光代准教授、前田一貴講師
4	倉本到教授、衣川昌宏准教授、河合宏紀講師、藤井淑人講師

所属ゼミの決定方法

学年開始前	事前に 6 人以上の受け入れ最大可能人数を各教員が示し、学科で調整する。
	
授業開始前のオリエンテーション時	説明、研究室訪問、学生同士の話し合いを時間をかけて行い、その後、所属ゼミを決定し、登録する。

※担当教員（ゼミ）の変更は、1 年次から 2 年次への移行時及び 2 年次から 3 年次へ移行時には可能とし、3 年次から 4 年次への移行時は不可とする。

運用形態

	1年次	2年次	3年次	4年次
前期	オリエンテーション フィールド体験 先行事例調査	WP 提案 WP 設計 WP 中間報告	RP 提案 RP 設計 RP 中間報告	プロジェクト社会 実装 プロジェクト試験 運用
後期	先行/既存プロジェクト参加学習 プロジェクト提案	WP 実装 WP 評価 WP 成果報告	RP 実装 RP 評価 RP 成果報告	プロジェクト継承 プロジェクト評価 成果報告
全体像	前期：PBL 体験による活動準備を行う 後期：4年生が実施した先行プロジェクトや地域・企業の提供する既存のプロジェクトに参加し、構想をプロジェクト提案としてまとめる	興味を持つ技術的要素を見つけ、ICT 技術を活用した対象フィールドにおける課題解決に貢献するワーキングプロトタイプ(WP)を提案・設計・実装・評価する	これまで取り組んできた課題に対し、実運用が可能と考えられるアイデアを、ICT 技術を活用した実運用向けプロトタイプ(RP)として提案・設計・実装・評価する	前期：RP の社会実装に取り組み、試験運用する 後期：特に1年次学生の参加を得てプロジェクト運用を継承するとともに、プロジェクトを技術的・社会的両側面から総合的に評価する

成績評価及び単位認定

学年開始前	学科全体で PBL 科目の単位認定の基本方針を定める。
成果発表	各ユニットで当該ユニットの教員と学生全員参加の報告会を行い、そこで学生が発表する。
評価	ユニット単位での発表や各ゼミでの学修成果を確認し、担当教員全体で科目の到達目標と学修成果を確保しつつ、成績評価及び単位認定を行う

開講方法

各学年の受講のあり方

年次	履修するコマ数
1年次	1コマ
2年次	1コマ
3年次	2コマ
4年次	4コマ

各コマは合同授業とする。ただし、上記の成績評価及び単位認定のところで述べたように、到達目標と学修成果の確保には細心の注意を払う。

想定される時間割

曜日	時限	履修する学年
火	3	1年次、2年次、3年次、4年次（合同）
火	4	3年次、4年次（合同）
月	4	4年次のみ
月	5	4年次のみ

※ 全て通年の授業

